



尾張名所圖會 後編

一

ル 4  
4597  
8

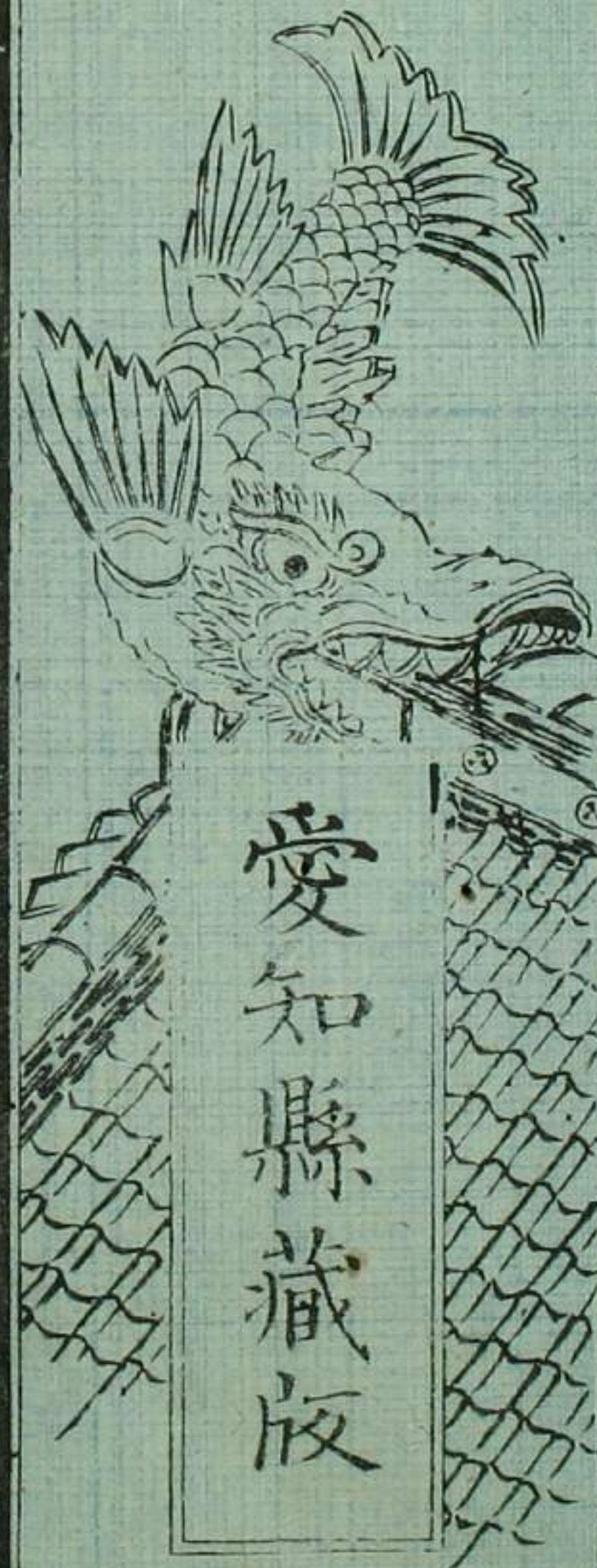




岡田啓  
野口道直  
遺稿  
小田切春江  
并補綴

# 尾張名所圖會後編

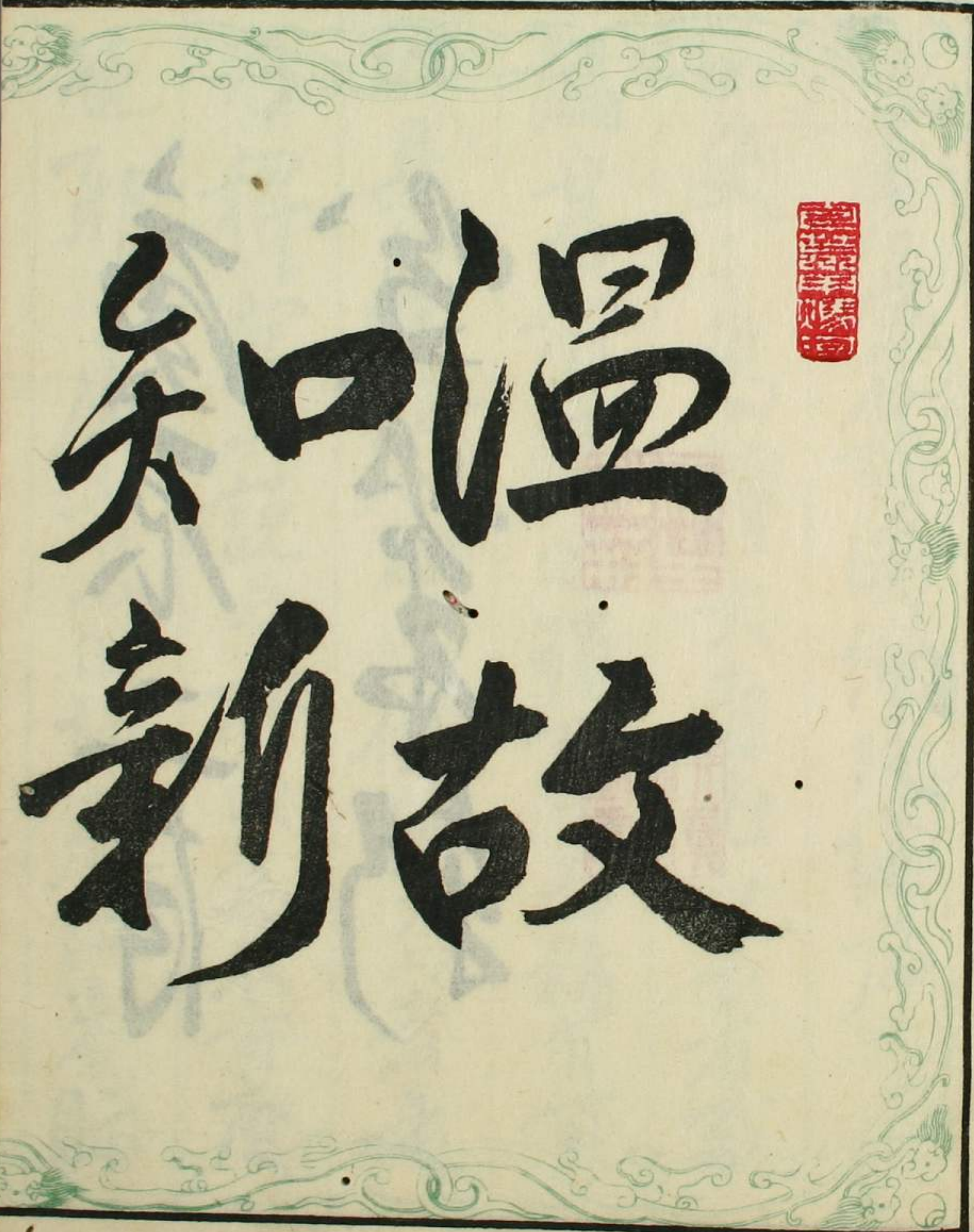
明治十三年  
九月  
出版



愛知縣藏版



門凡  
號 4597  
卷 8



溫故知新

Red seal impression.

早稻田大學圖書館  
35.1 28 號  
藏書



庚辰二月  
交第第新



庚辰名所圖繪後編序  
史之為體大者必記少者或  
漏其所漏之類事而猶有可  
以見風俗人心之微醜焉者是  
乃稗官小說之所以為不可廢  
也耶屬者當切春江采跡



以屋張名所因得後編曰雜  
類之少冊類見玩而其撰頗  
勞方子以為有取乎則請為  
一言披而閱之則勝區名蹟  
浩穢悉舉古風舊俗之情  
狀歷然乎圖記紙上無此撰  
地誌者徵諸記牒及傳聞者  
為多而親親其地驗其實  
者無幾故記風俗叙事蹟  
或謬或漏今如此編則足  
踏其地目驗其物備證諸  
考及舊藉以謂各西敷之而



圖成熟完而書具者或之  
以補地誌之闕歟抑又思之  
治化之要本之於民情之微  
醜之所判未嘗有不根其  
俗之所由來蒼記縣圖為之  
於古風舊俗其所觀感竊  
深故為治者有以資焉然則  
此編既可以備史家採摭又  
可以借治者參考豈越謂  
之非兒玩也哉乃揭其所以  
益乎世者書之於首簡

明 沼 庚辰二月



國自廣中撰



葦原眉山書



序



有大木石于此當人挽送一人  
唱耶許衆應而和也于轉之也  
易者其挽者之力也使  
挽者一人之氣也此蒞之化因  
同學諸子之力也於此鄉有  
精之執牛耳而耕理宰



創之末必至乎體制精美如  
斯然則涉子之伎倆亦為小  
而精之之切大如或嗤笑之  
曰如涉子則吾不知精一而為  
此運之之舉何余曰吁乎茲舉  
名而圖繪者大其滿園之可  
即是有古者凡出記造意也圖

臨之為物也名區陳議存事  
美譚圖記亦涉以傳其實也  
於乎使人觀圖之先尤為捷  
傳者且精一涉方居深故之地  
不敢械俎而謀獨創名法不競之  
業而為昇平亦補善是精一得  
之之之身以之職好之詩



厥刻之文固為多泐以之出位之  
強滿此分之誇說之亦泐於其  
在序同學思以是為其江以之為  
梅居以是為文園其才藻富贍  
率皆科家所用之器前編之引已  
一之贊之今不復言之因憶辛丑之  
冬持一以其所作之引示余曰此

舉如書待箇舉之方而味亦特隨  
裁之年之書謂以之為異時後編上  
本之日或煩吾子以序之名路辭請幸  
勿推焉雖今殆四十年固以大成也凡  
意及而稿一氣本已推之文園梅居  
亦存覽七日四學之存其福春江一人已  
為其心一第勞謀以成哉余表



寺如玉亦之心回神不仁之症死期在  
且夕而程乃致遭乎成業之日為之  
序以之緒之書之感考也遂序以治  
十三卷真一自七十之寂極新中  
四清樓題



明應時年六十五



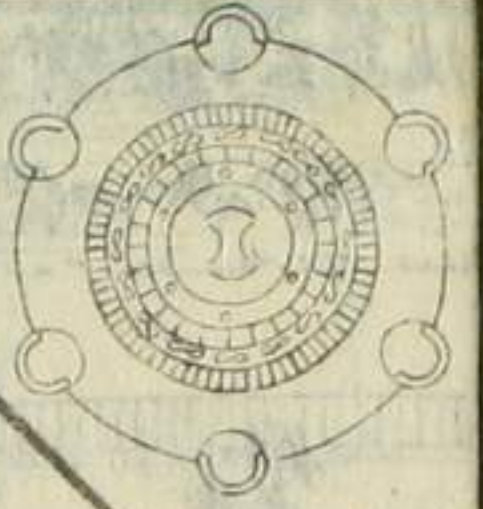
古之屋法之所因也海揚刺  
乃其乃之也  
信角の古乃の法書也  
物乃の古乃の法書也  
乃の古乃の法書也  
乃の古乃の法書也  
乃の古乃の法書也







白駒中阮出器圖



大阮國  
小阮國

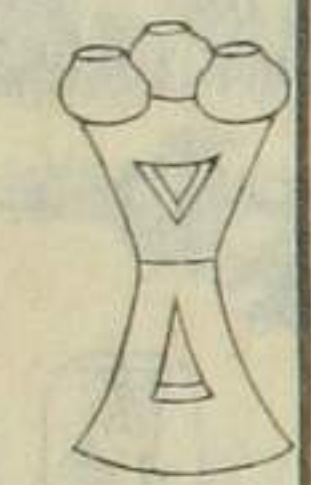
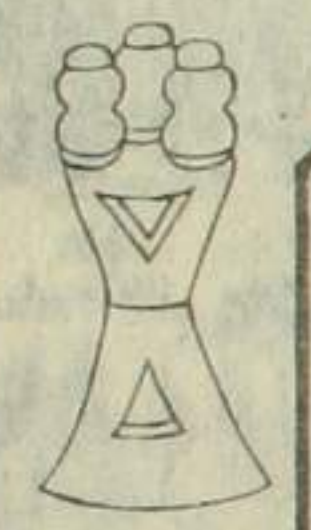
天正二年大阮帳及六年  
正稅帳所用

天正二年十月五日阮國  
國司所用

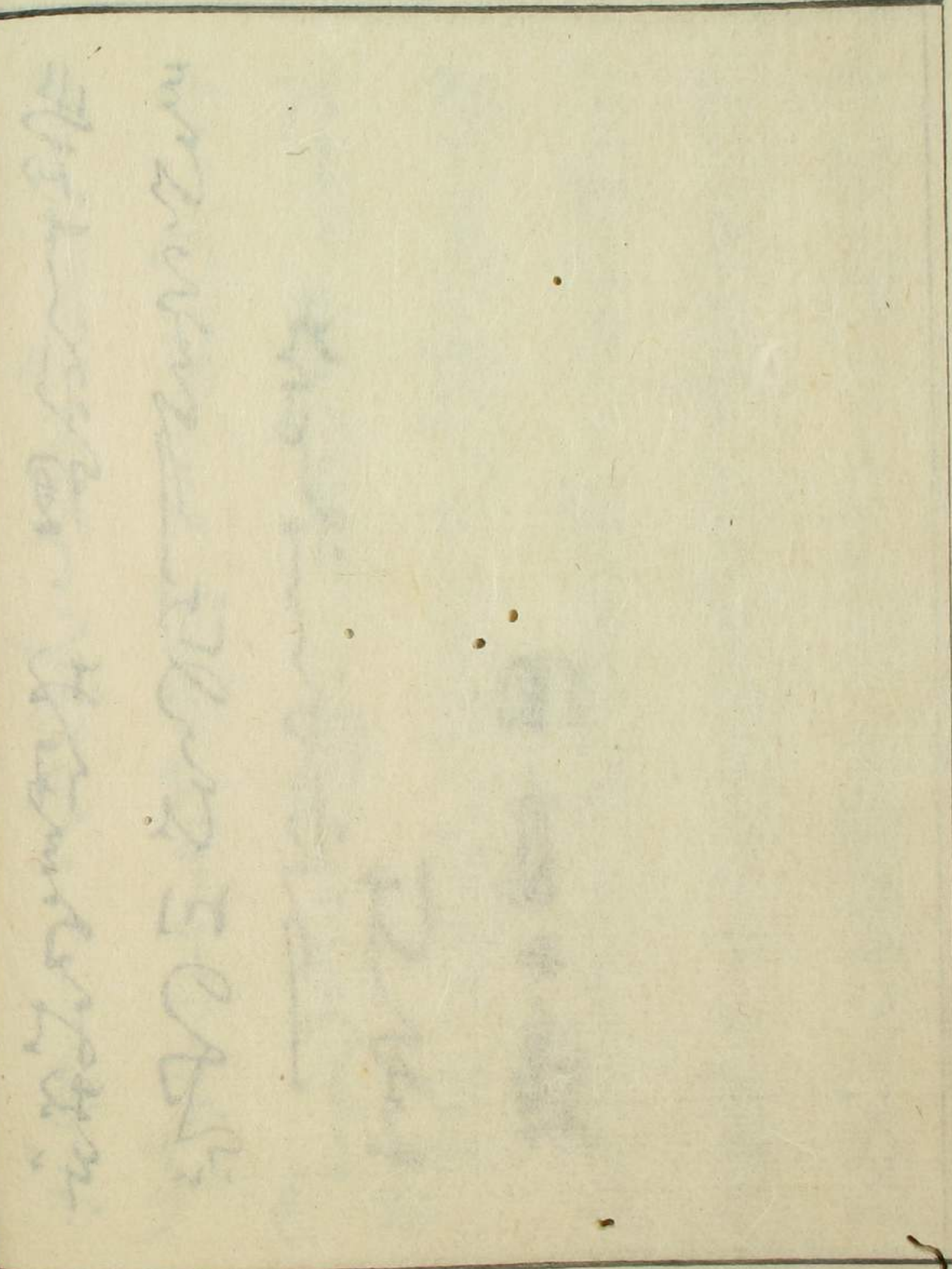
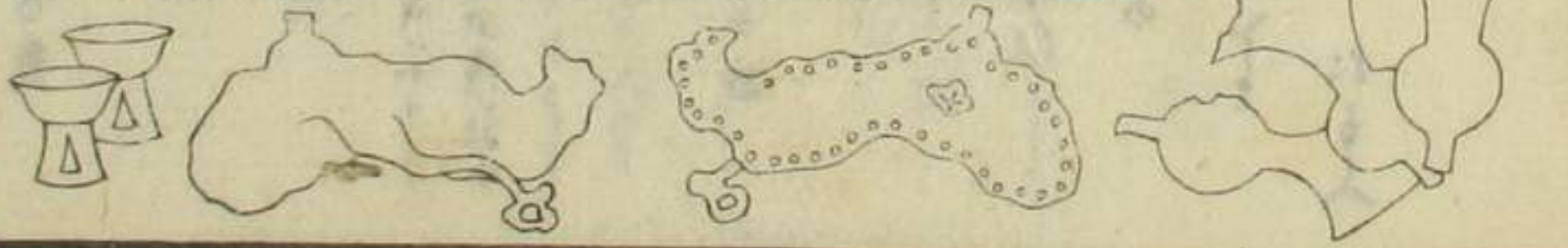
大阮國  
小阮國

執事印  
藏物圖

大阮國  
小阮國



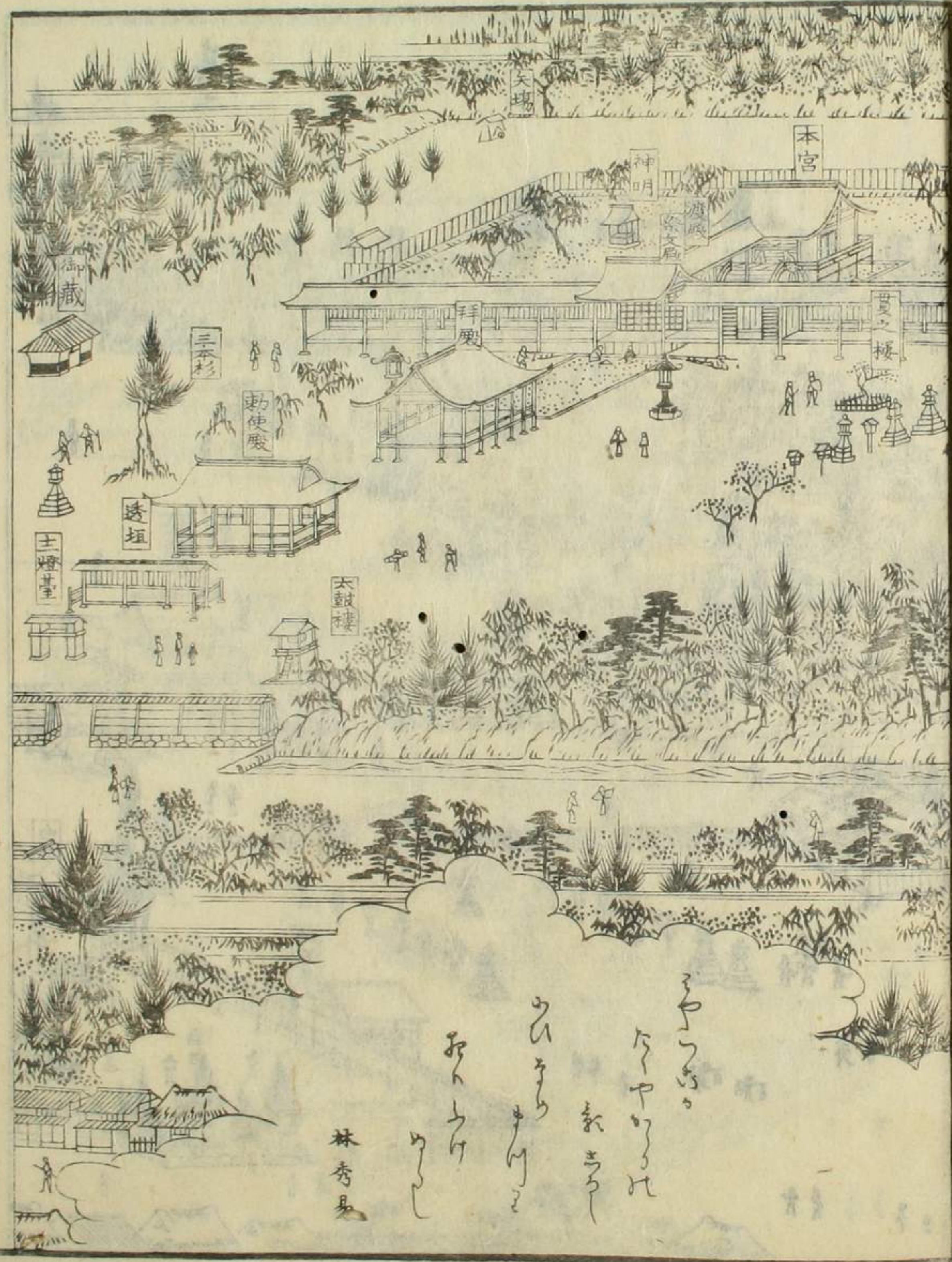
春陵寫











千町田面  
 草部御厨  
 正明寺  
 下津里  
 陸田御厨  
 妙興寺  
 砥塚  
 孝貞女三輪の傳  
 淺井田宮丸城跡  
 國照寺  
 官地花池村  
 同靈宝弘通の図  
 川曲神社  
 赤池里  
 佛徳雷と避し圖  
 四ッ屋  
 長束正家宅址  
 瓦堂廢跡  
 毛受村猿曳  
 大神神社  
 万里和尚の古事  
 大神社  
 三本木池  
 織田敏廣城址  
 淺野長勝屋敷跡  
 飯尾氏城跡  
 安樂寺  
 荻安賀惣園  
 蓮花池跡  
 小栗海道  
 拜師舊郷  
 万徳寺  
 加藤光泰舊宅  
 六角堂長光寺  
 林秀長

千町田面  
 草部御厨  
 正明寺  
 下津里  
 陸田御厨  
 妙興寺  
 砥塚  
 孝貞女三輪の傳  
 淺井田宮丸城跡  
 國照寺  
 官地花池村  
 同靈宝弘通の図  
 川曲神社  
 赤池里  
 佛徳雷と避し圖  
 四ッ屋  
 長束正家宅址  
 瓦堂廢跡  
 毛受村猿曳  
 大神神社  
 万里和尚の古事  
 大神社  
 三本木池  
 織田敏廣城址  
 淺野長勝屋敷跡  
 飯尾氏城跡  
 安樂寺  
 荻安賀惣園  
 蓮花池跡  
 小栗海道  
 拜師舊郷  
 万徳寺  
 加藤光泰舊宅  
 六角堂長光寺  
 林秀長







中嶋郡

當郡ハ國のうらの西成の方にありて國史とくとり和名抄延喜式  
等の古書どもふれ中島とわたり東ハ丹羽春日井の二郡小隣  
と南ハ海東海西の兩郡小接し西ハ木曾川と限り北ハ粟栗郡  
と堺と次郡中山のく田圃のこの地なり尾張風土記殘缺中  
島郡民用富貴也材用不少出脩竹柴胡大根胡麻等云云と  
ふれり  
むらさき川尾張美濃の國界とて天正十二年秀吉公木曾川と堺を改め  
らるるにむらさき川と改めり今もむらさき川と云ふ 中島宮の古縁起ふじり倭  
姫命八節の竹杖と四つ折して四方小投りひしがハツの竿竹と生り  
しとこと御園といひ其四隅のうらと中國といひ是中島の郡  
名の起まるりとうらうら記せり風土記などの古説ふらうら  
傳へるるれどわらわらふ

一之宮村

あ郡のうら東北のむらさき川に當國一宮大神の鎮坐す地なり名づく  
あ村及びあ村等 鳥羽天皇第三の皇女暁子内親王のうらに八條院

東鑑小池大納言家

沙汰真清田在尾張八條院御領右在園任本所之沙汰彼家如元為

有知行勤状如件壽永三年四月六日とんふり又一の宮とて事も

古く同書の義久三年六月五日戊午辰刻關東西將着了尾張國一

宮邊合戦間事有評儀自此所相分方々道云々とんふり義久記の同

時合戦の条十六夜日記康富記等の古書どもにか一の宮とわり

て古き地名あり

正一位真墨田神社一宮村のむらさき川に當國一の宮と稱す延喜神名式の中島郡真墨

夫あ社の鎮坐年歴久遠とて洋うらとて社説し神武天

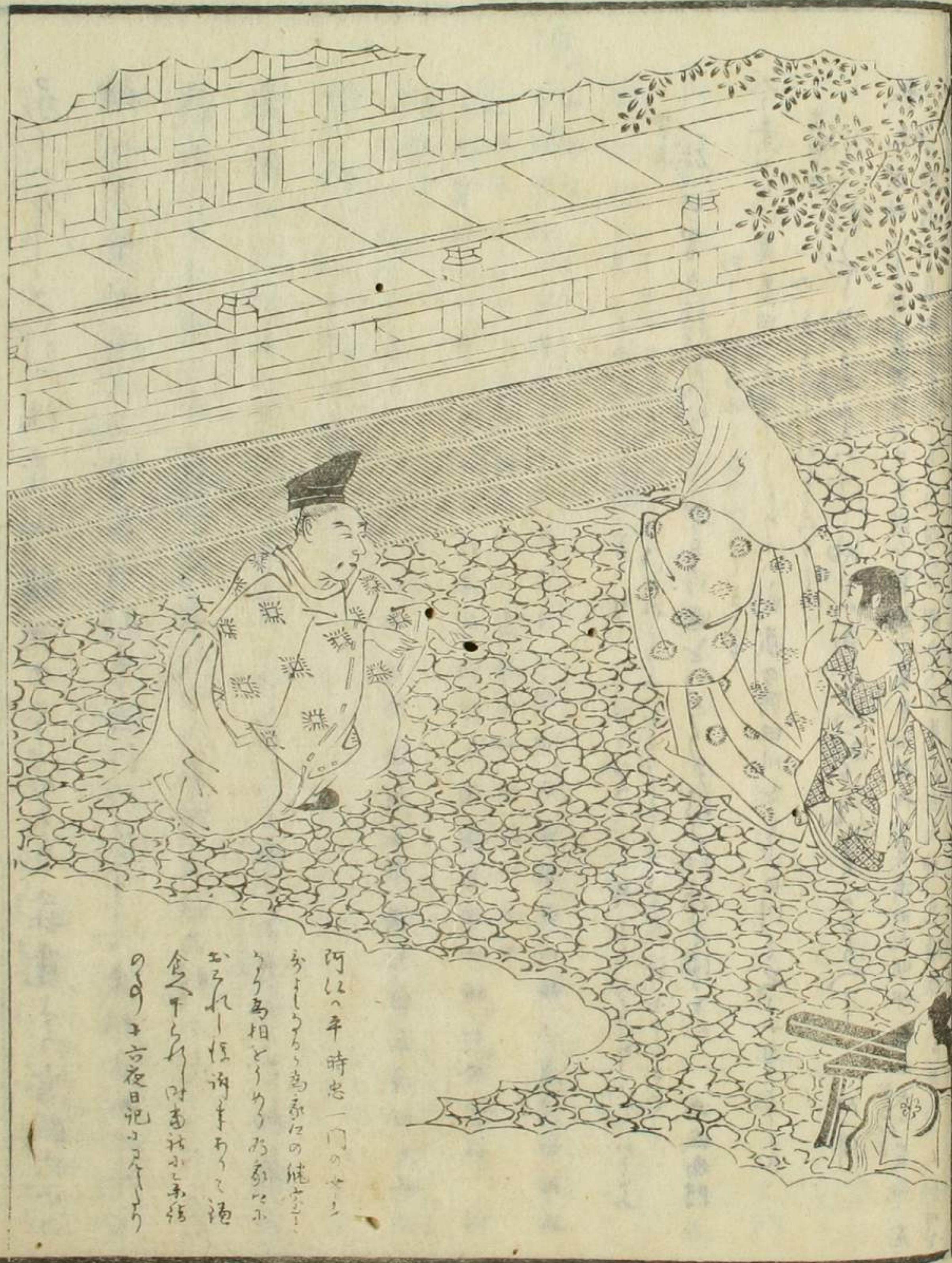
皇三十三年癸巳三月三日松降在青桃丘今の一の宮村小御鎮坐うらとて

と稱は御沖ハ天神七代のとて百王太祖の國常立尊とて坐と

尊神常に天地の中小獨立て万物と化育するふり天御中王尊

とも稱し奉りて天地のるけとてけるもの此沖の冥徳ふ





阿はへ平時忠一門の女  
 分より、為承の能く  
 うり為相とく、の  
 公これ、恒前ま  
 食下られ、財  
 のり、子方夜日記



阿佛尼一宮の詰  
 和歌と奉る  
 図

雅  
 圖





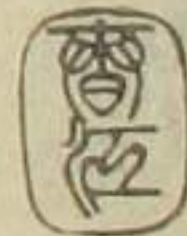


聖武天皇宸翰古額

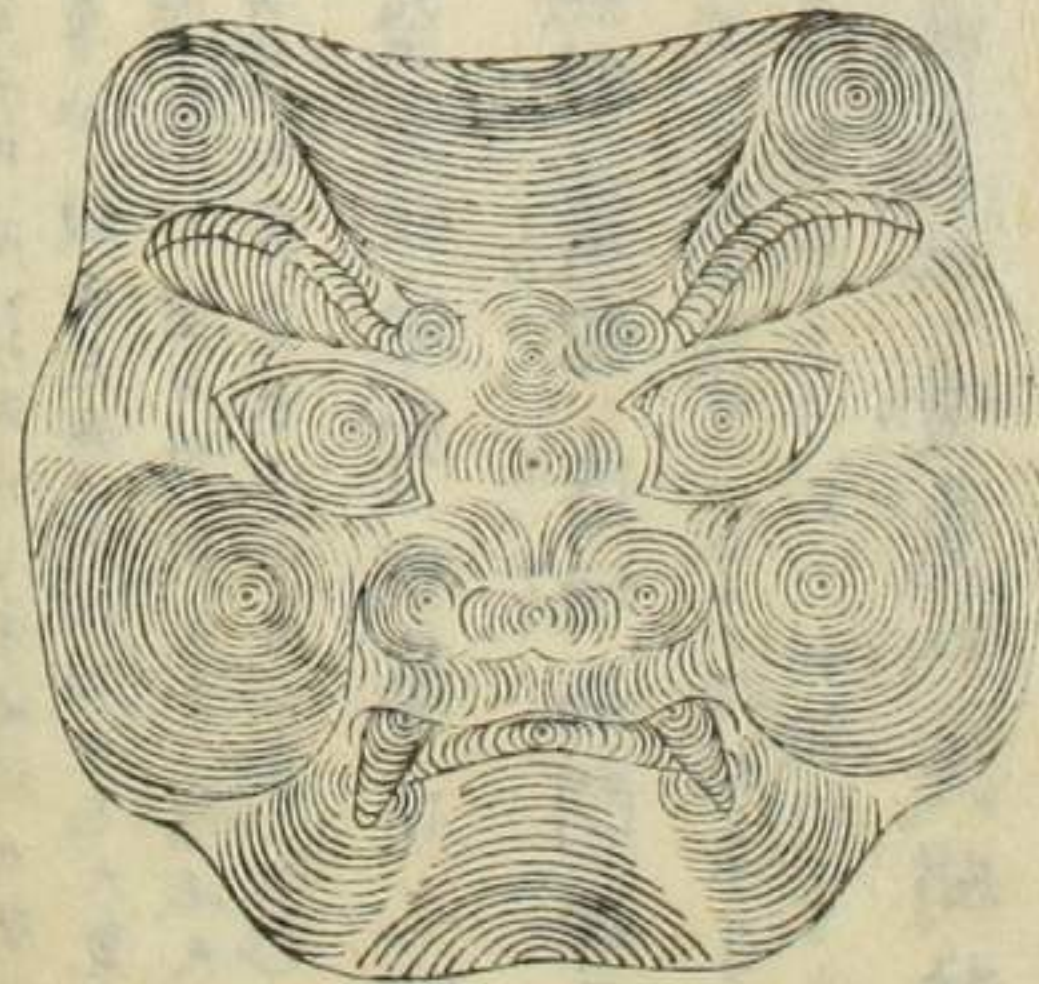
神寶



木目の假面



一本として製造する本理  
 のどくろ鬼形の面相とをとり  
 顔一奇品と云ふべし



裏書

願主一宮住人藤原朝臣  
 四郎右衛門尉清則  
 作者神官坂上京則  
 画圖之師源朝臣長氏  
 于時文明三年  
 九月廿四日

陵王

裏書  
 美元五年歲辛未青陽天調建之  
 柳社神事之外不可出他所



貴徳 美元五年



童舞 美元五年



散手

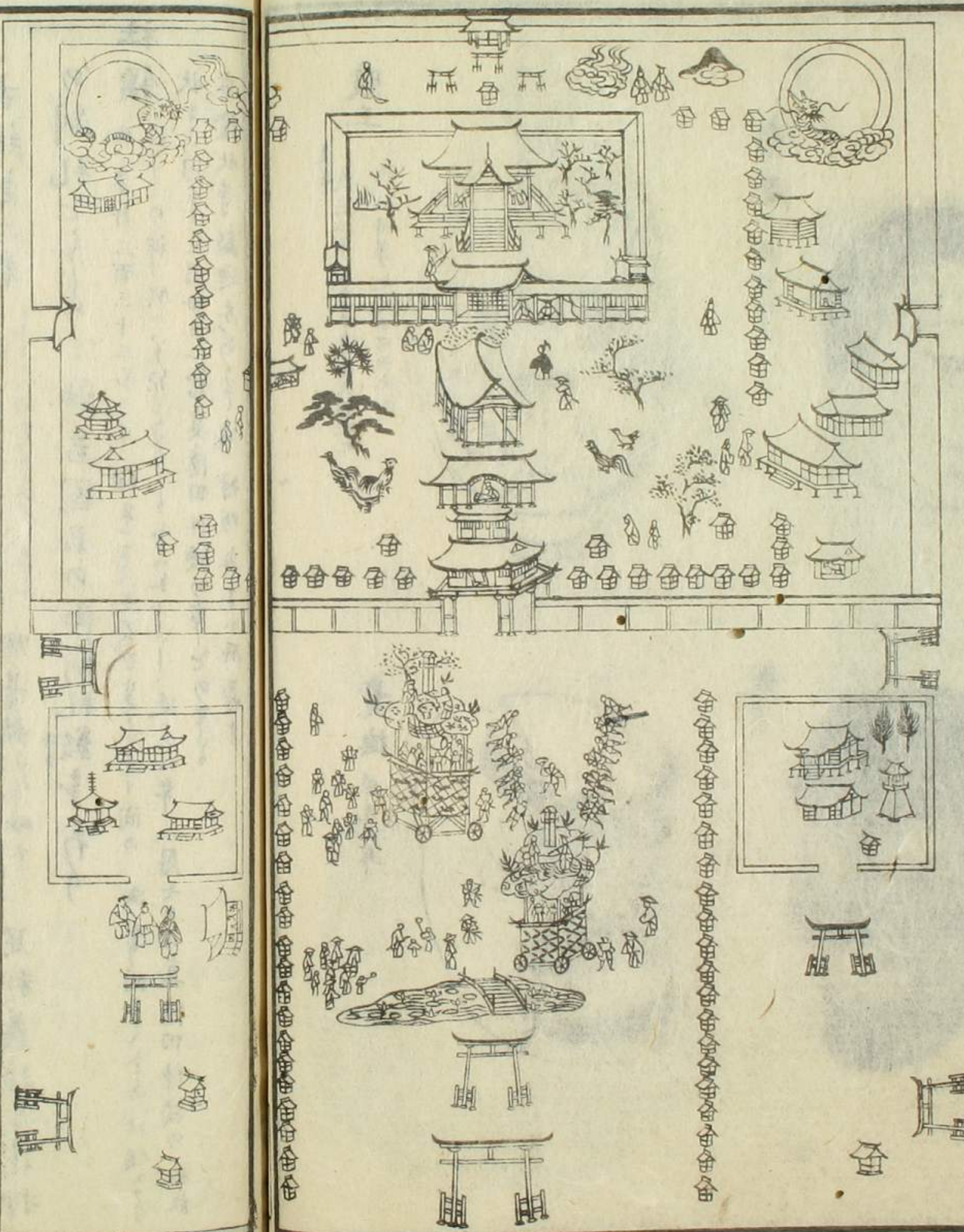


古唐の舞衣をたはしむるも中世唐舞の形を  
 奉世の衣をたはしむるも今世唐舞の形を  
 奉世の衣をたはしむるも今世唐舞の形を  
 奉世の衣をたはしむるも今世唐舞の形を

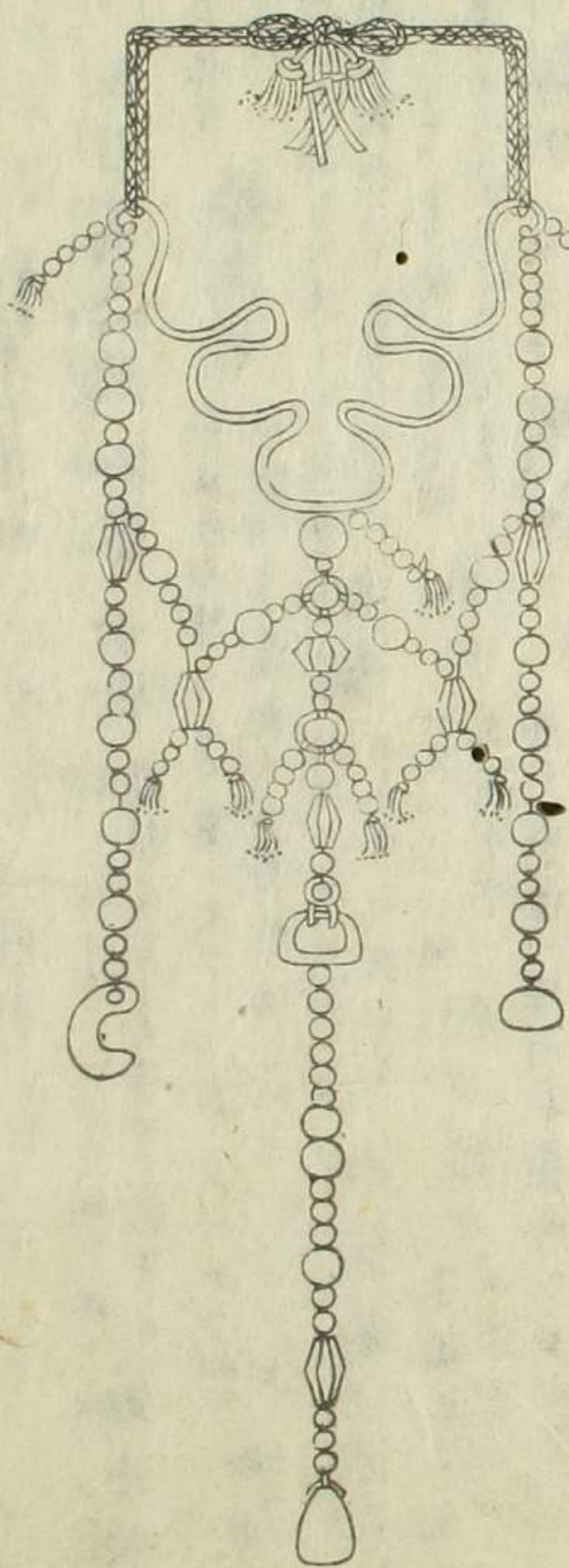
頂法辛の勅所より  
 美元五年の



一宮古圖



五百箇御統





てありしもの上より時代と移りて白のうらとを注ぎのちまきとせしめ  
延暦三年三本

杉 二本枯て弘仁年七本松 一本枯て今 二股竹 境内あり

神寶 五百箇御統和琴古鈴 建曆元年真清田に彫付り 獅子頭 銘文あり

鐵鳥居 本社の内陣より高一尺二寸廻り銘あり 御韓櫃四合

銅盤 天正二年甲戌八月十八日の送あり 神鏡數十面 東の波鶴亀

太刀 二尺八寸三條 宗近の作 短刀數口 來國俊來國光來國次

假面二十三種 何れも世の稀なり宝器なり其より陵王の面の俗の御社神事之外不可

喬刀 二尺七寸 兼信の作 鐵箭一手 月三日信心大施主左分七郎左衛門尉元吉とあり

古縁起二卷 正徹の筆ありて秘書 燈臺銘 集古十種小出 足利義植公花押

の制札とあり 神君國君の御制札數多あり

社領 御朱印三百三十三石六斗餘をそ及び是永年間の 濟寧附そ今の社領あり

ひりの神儀ありて松明とて白登のぐく内陣より燈火と捧調進

古澄狀寺教通ありて隣村所與多の所存す

例祭 御鏡餅御饌調進 正月 白馬神事 同七日供御調進神馬と奉り 小豆粥

調進 同日 祈年祭 同日より二月三日まで毎日丑刻 供御の韓櫃と御饌殿より度殿

祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

桃花會 同日供御在桃花浦進車樂二輛と錦儀とありて

供御調進 三月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

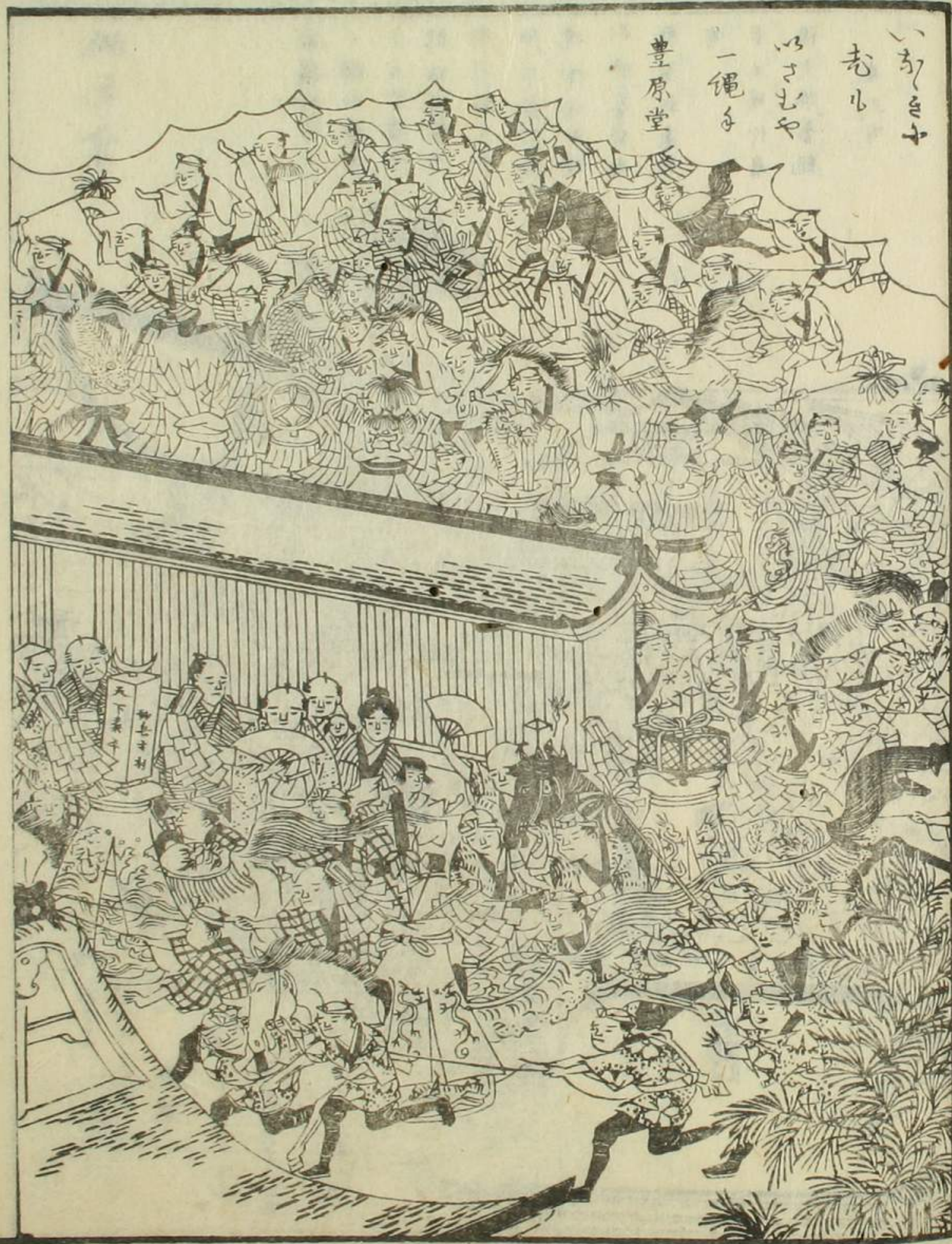
御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

御饌調進 同日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭 二月朔日 祈年祭

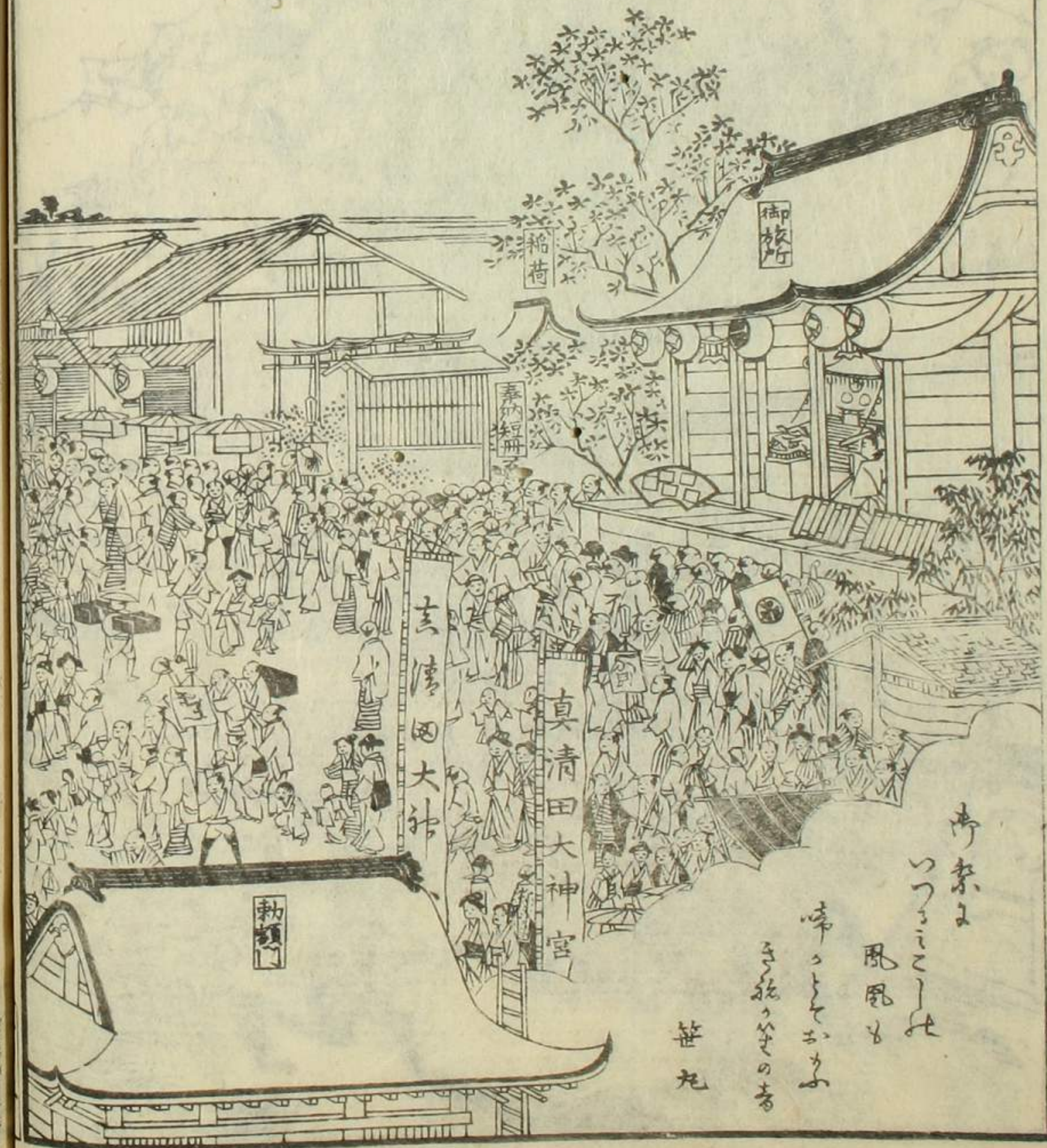






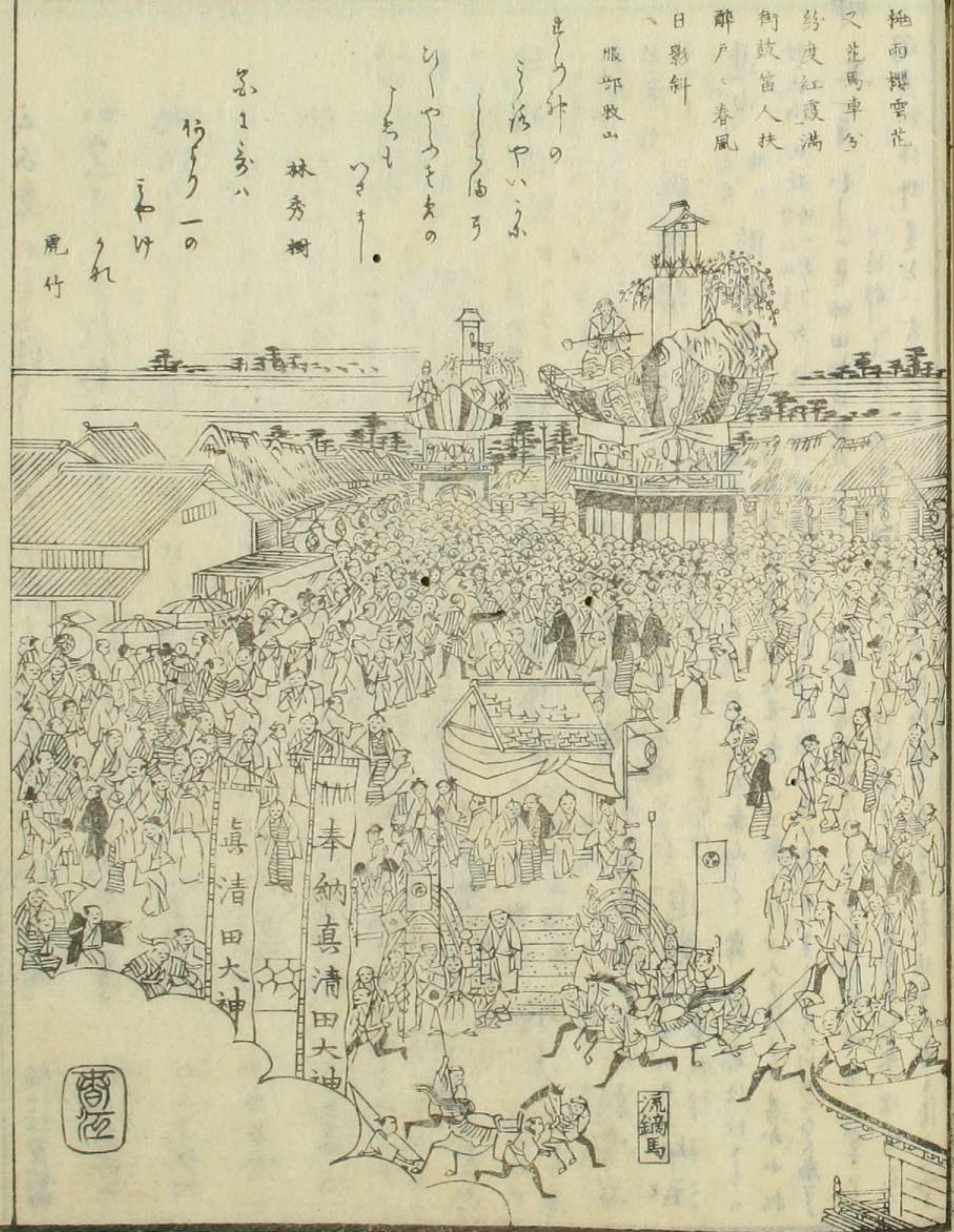
桃花會

結構行宮十  
 二欄神輿降  
 自五雲端千  
 秋雅頌標明  
 德闔國人民  
 拜王鑾斜歷  
 時階旗影轉  
 別修春祭馬  
 聲聞彩毫新  
 有  
 君王賜仰者  
 禮文勝舊觀  
 森正有



舟來よ  
 つつこし  
 風も  
 啼くとて  
 さねのき  
 笹丸

桃雨櫻雲花  
 又花馬車分  
 紛度紅霞滿  
 街鼓笛人扶  
 醉戸春風  
 日影斜  
 服部牧山



まじりけの  
 うらやいふ  
 しーゆり  
 ひーやうと夫の  
 林秀樹  
 糸いさハ  
 けりーの  
 鹿竹

香

流馬



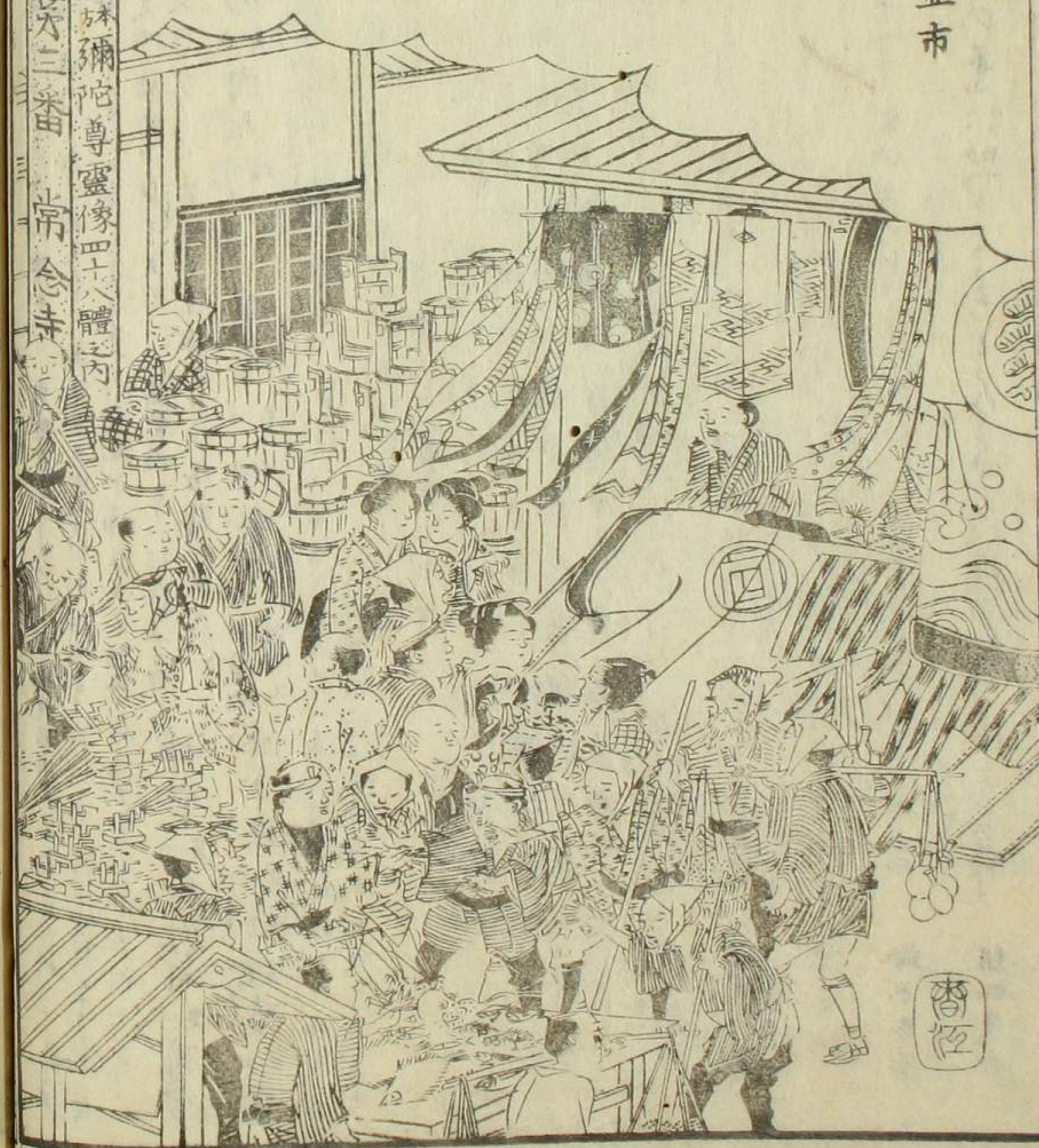




一宮月並市

高所小正月  
三ハの市主ハ  
アキをこの高  
人寄集り物布  
と一少階のみ  
及以物 雜教  
あつたし河  
が交易をさ  
夥し教万人の  
市主ハ彼南  
市主記ハ  
臨安府の難  
アヤ思ひま

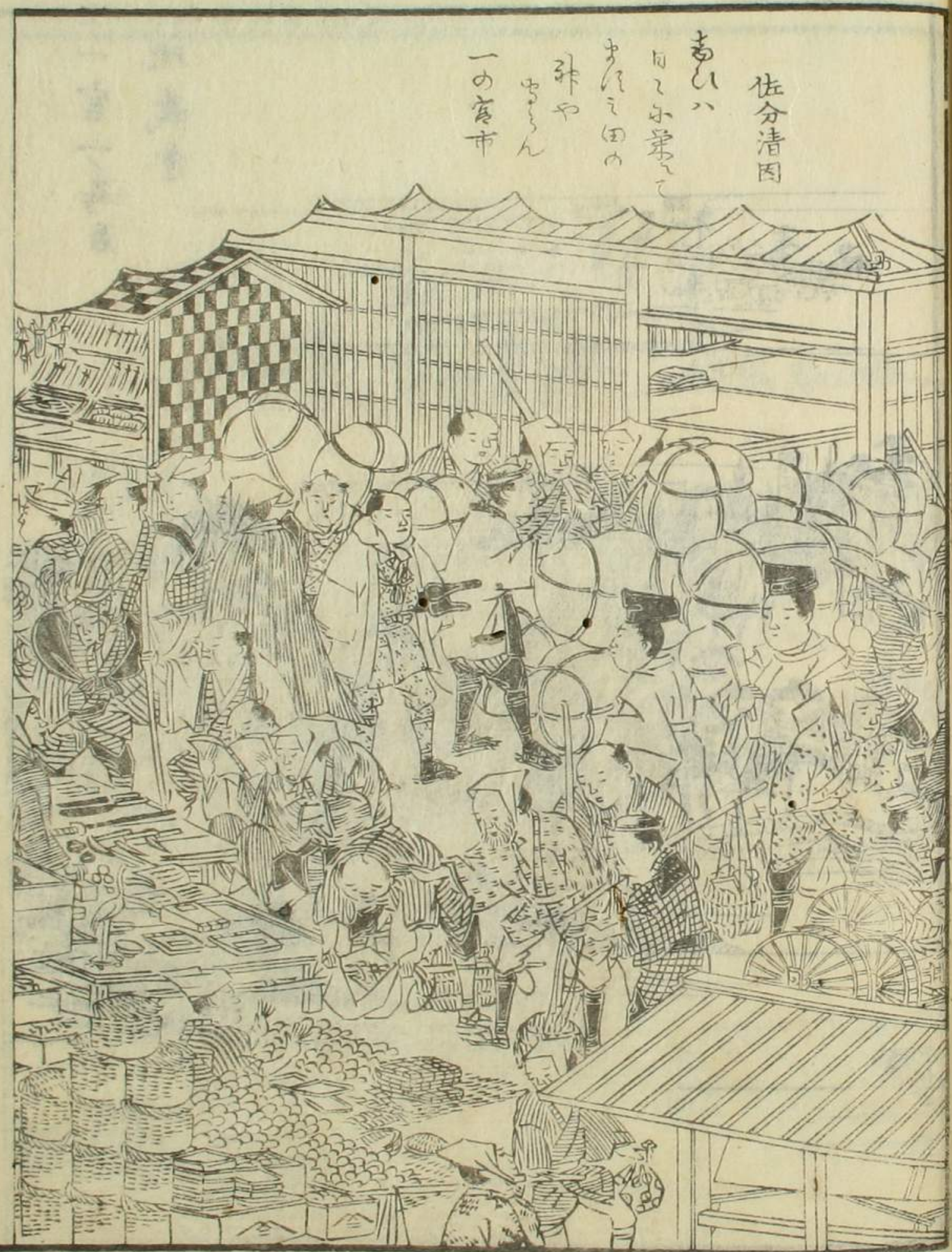
日林彌陀尊靈像四八體之内  
安六二番 常念寺



香江

佐分清因

あハ  
日ハ小葉  
あハ田ハ  
孫ハ  
一ハ宮市







一宮一鳥居  
地藏寺

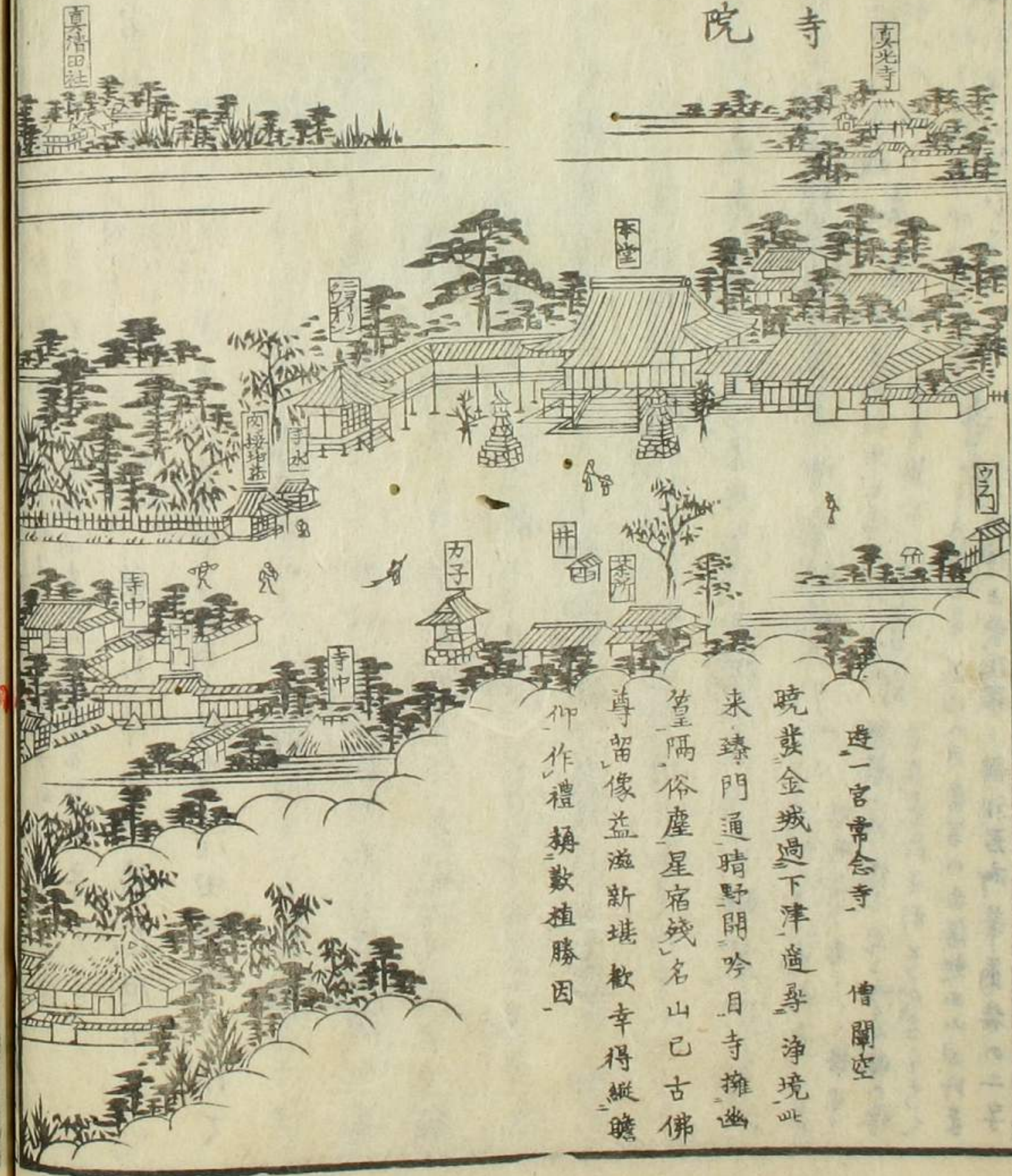








常念寺  
福壽院



遊一宮常念寺 僧關空  
 曉發金城過下津適尋淨境此  
 來臻門通晴野開吟月寺擁幽  
 篁隔俗塵星宿殘名山已古佛  
 尊留像益滋新堪歡幸得縱瞻  
 仰作禮轉數植勝因

御旗竿藪  
御殿跡

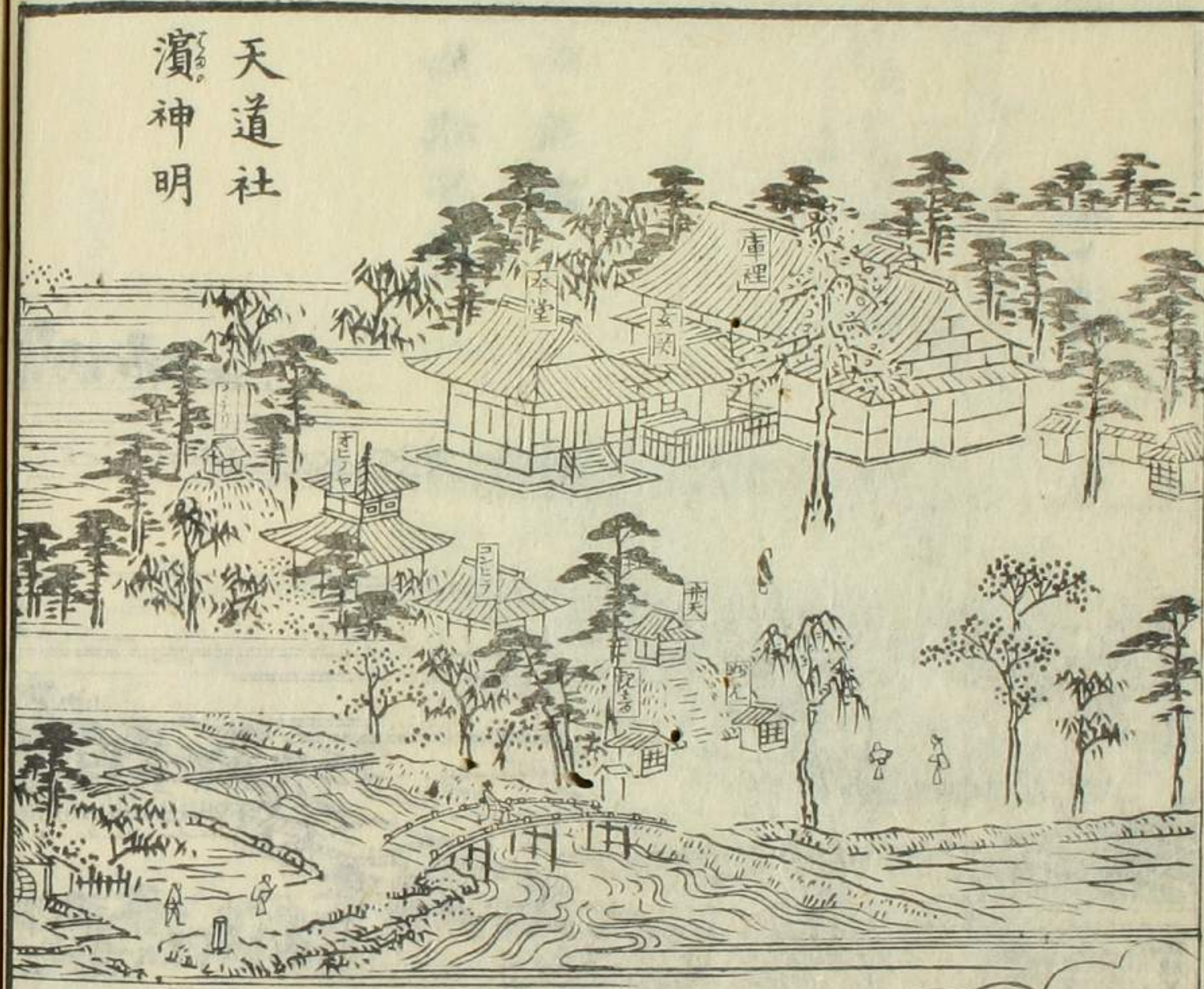


つら右ほとと  
 かき移り其外の  
 長くあふう年  
 佐分清因

香印



天道社  
濱神明



松下茂隆

みらりのきんり  
うんきんり  
ひんり  
そり

羽洲

車石の  
振と通るや  
落し

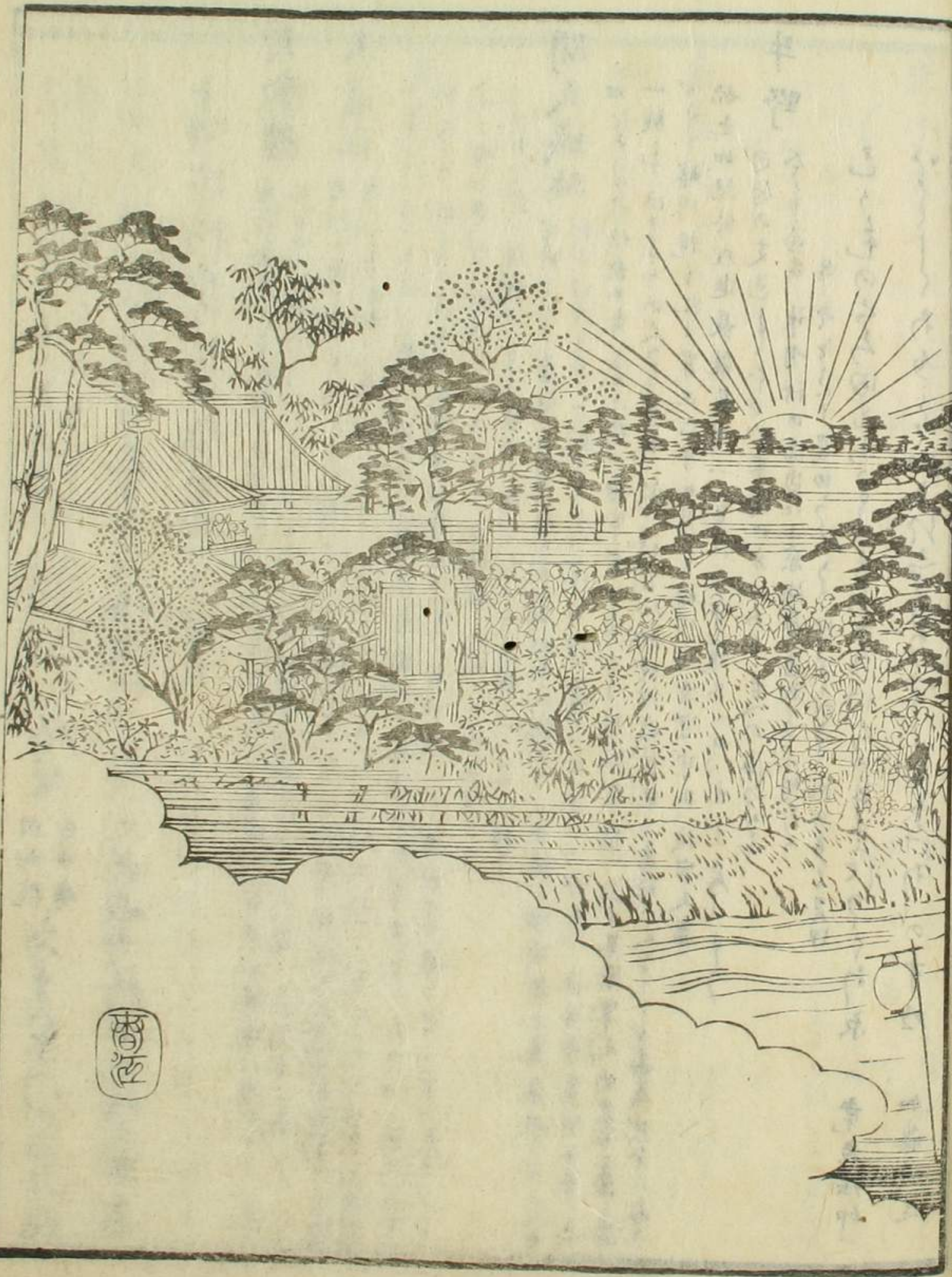


運理樓  
使神丹  
池のあり入り内  
なりて其の  
もろり  
砂のり本  
か水底へ  
十九年五月十三日  
除満  
林秀  
因丸島  
父まは  
飯源  
大  
鹿  
其  
と清秀  
信國  
村  
し  
其  
赤葉

常也  
神の  
曉恵

宿神明





天待

天道社  
日待の圖

前権中納言持世所

わ

ひりりり

今もせと

り

と

天は

日の







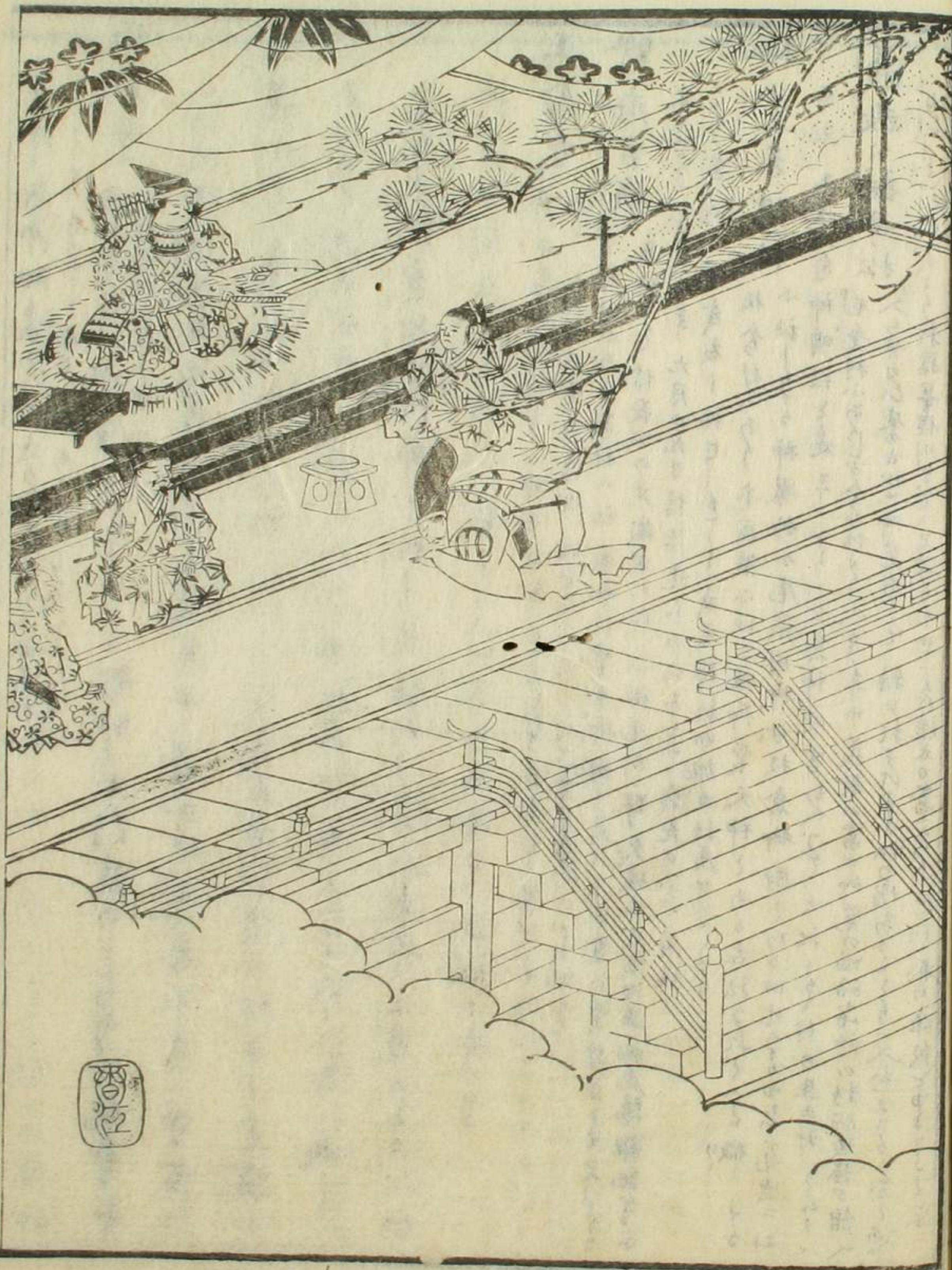




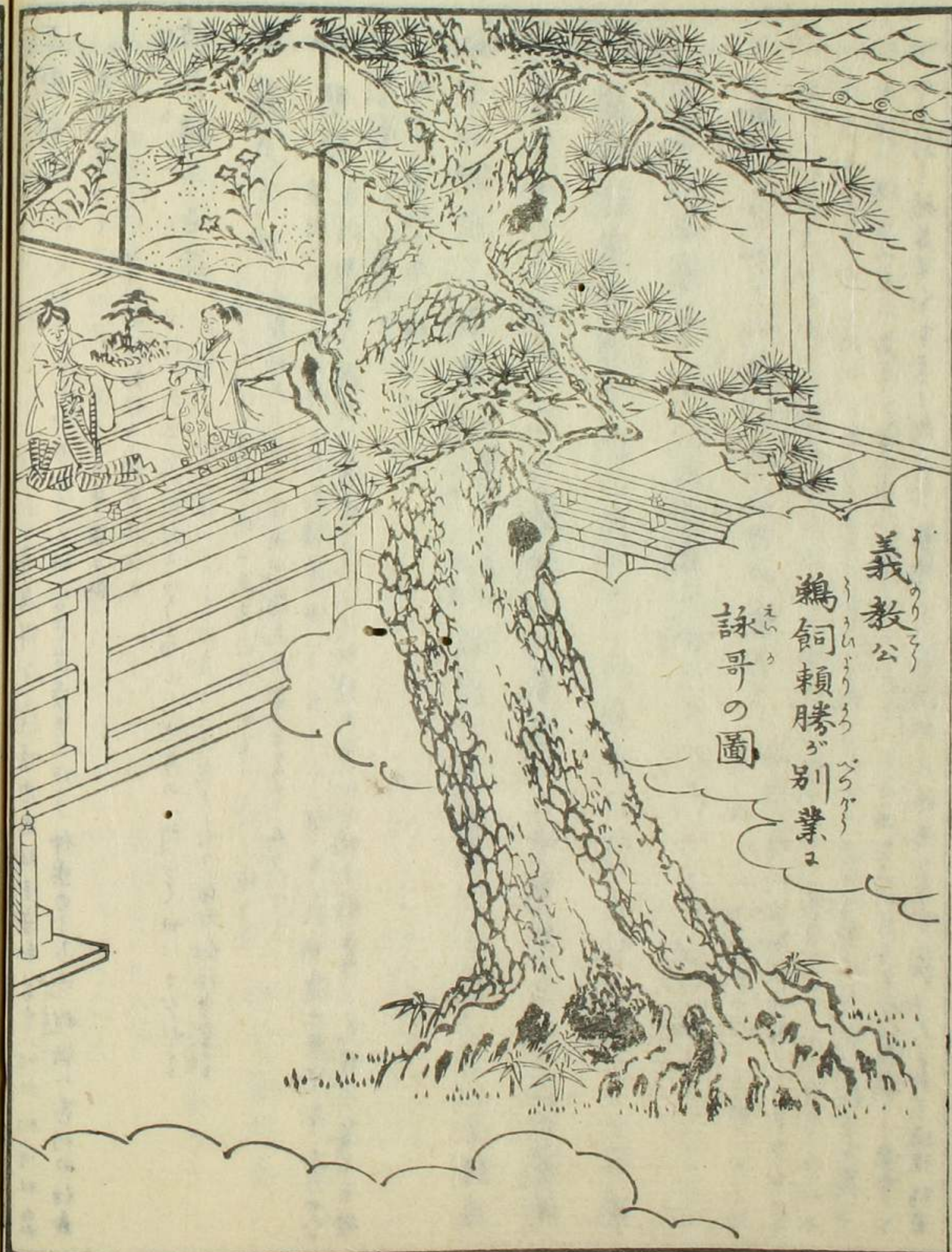








西



義教公  
鶴飼頼勝別業  
詠哥の圖







八受村よりわすの橋に  
 名古を三の丸に汗殿とく  
 りを友方のうまやの杉橋  
 樹と日一菰業、次は磯  
 人足のはまき、あまの口、頗  
 風流の妙業なり

玉溪

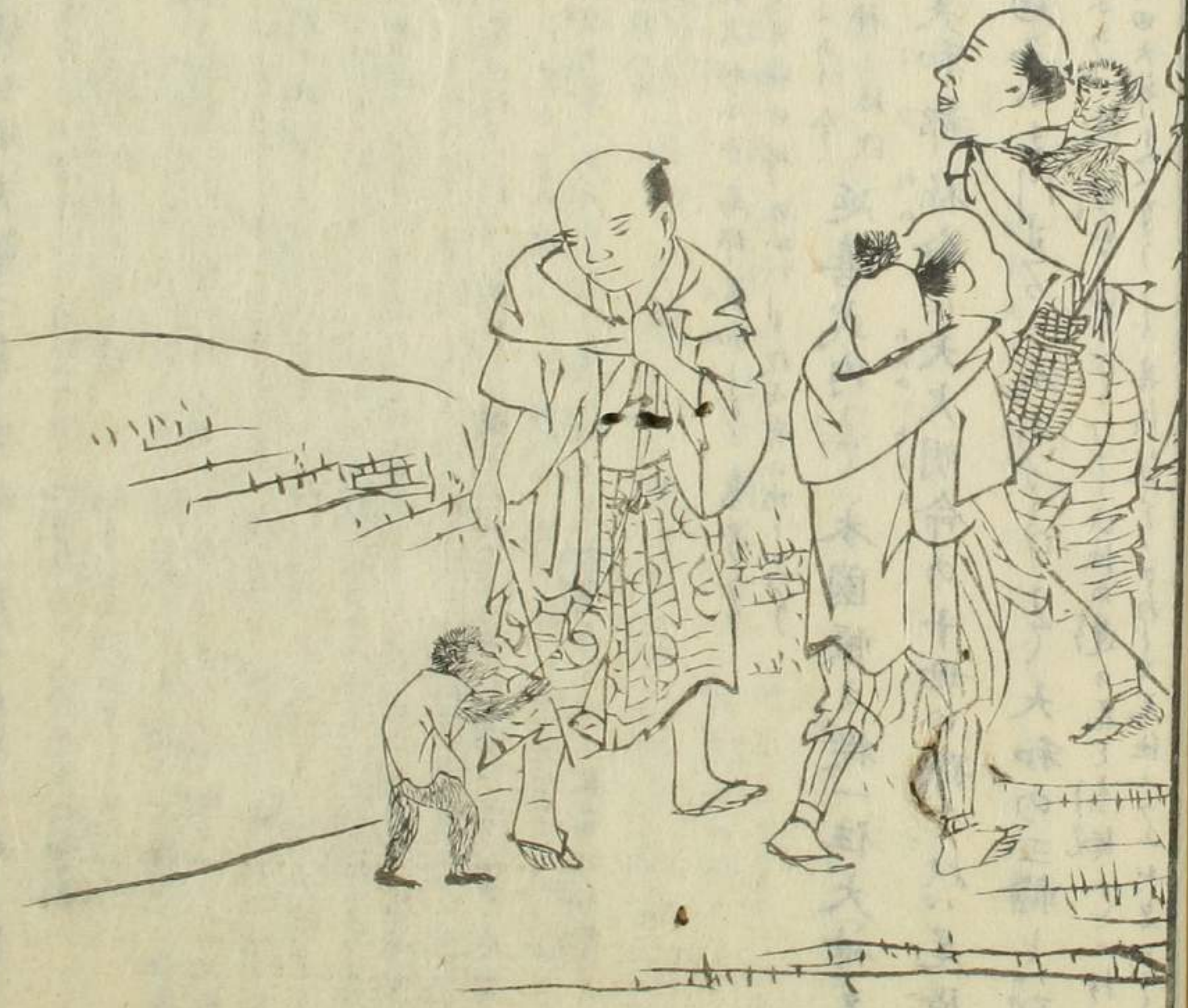


類聚王明雙葉句集  
 移川の橋

くらさり

柳丸

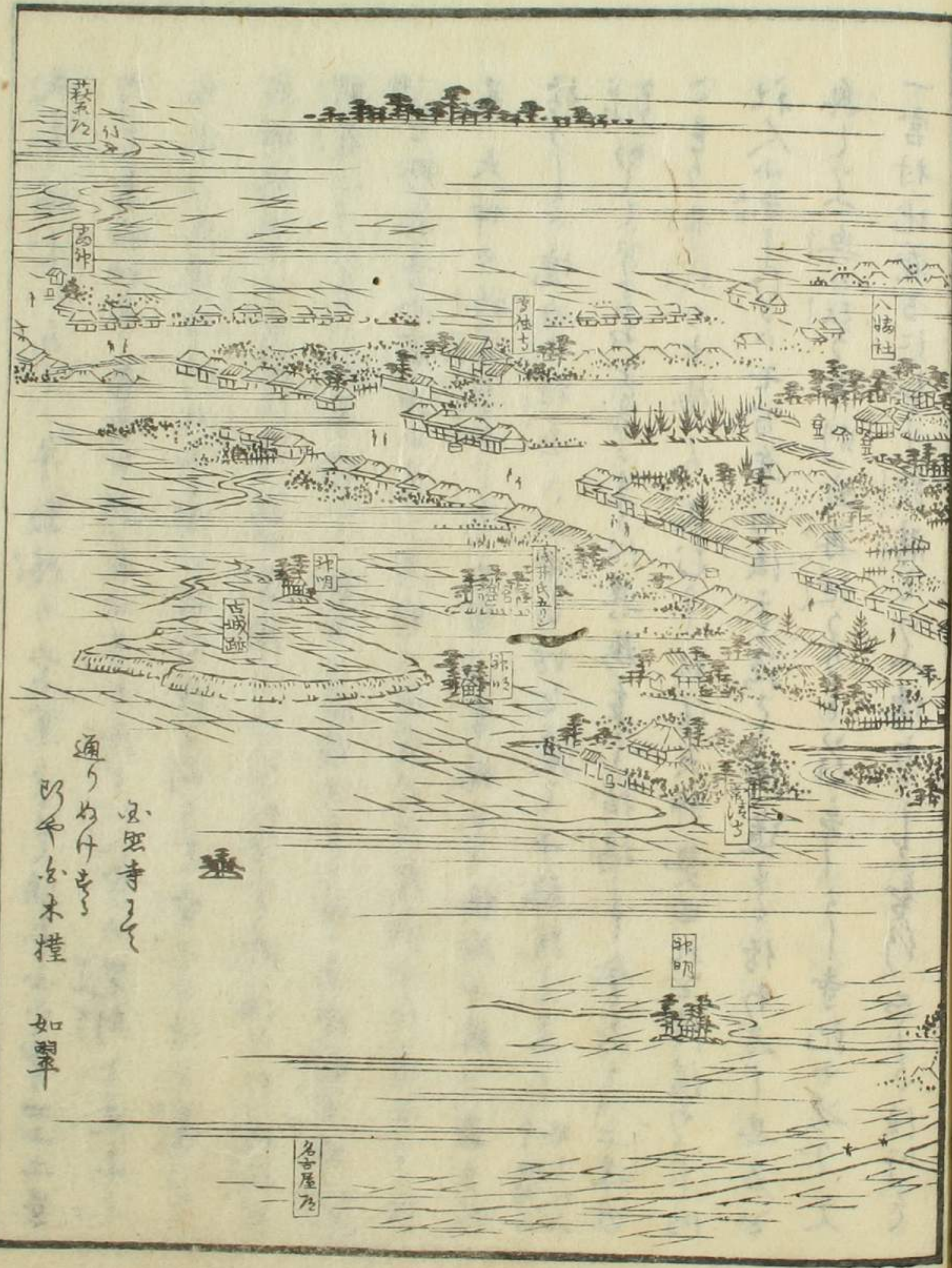
士朗



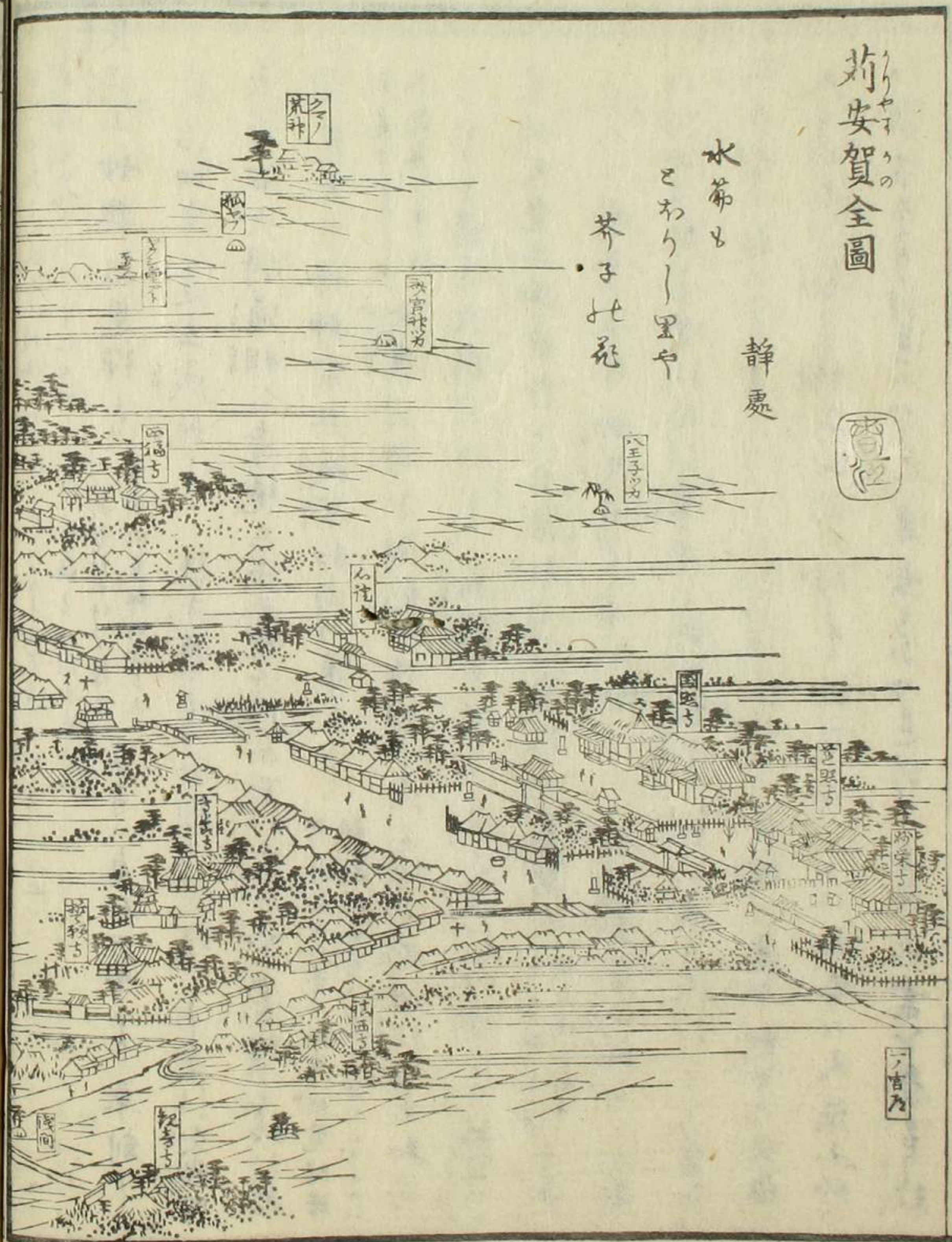








通る舟は  
 如翠



安賀全圖

水筋も  
 静處  
 芥子此花





夫より湯谷に在りて年數積り學業うりて後本宮小師り四十二歳  
中て貞和四年當寺と創建其外所に八宇の梵刹と建之  
又近江尾張該河の三ヶ國に接待院と開きて雲水の僧と養つり  
或時熱田小寺治り神社の荒廢しつとを以て修治と加一破換と  
廻覆りけしは社家収めて熱田の社領のち中島郡鈴置郷今の  
村と妙母寺小寄附あり其時の大宮司の澄光今に寺室と依  
又大神の託宣と云ふも大宮司常端より梅樹十株と當ち  
境内小松を以て一宇の坊と建て十梅院と号す今の山  
塔と云ふ  
此の坊にて早きおと居るまに其樹多く枯槁し今も二株の  
こより希代の古梅あり又じり弘法大師熱田社と修復あり此  
社人小示りけり七百年の後まはる修造する傍わたり其名と  
與しと與ら弘らり則我再誕ありといふ年一寺記あり又  
一宮村地蔵にじり觀勝といふ傍わたり智行といふ法師と

常に宗祖弘法大師と云ひけるも或時靜庵觀念一居けるに忽ち  
神を一人奉りて告ぐるは汝もどや今も此大師なりと云はれり  
此の神を以て大師と云ふは觀勝と出でて是は弘法大師禪師なり觀勝わ  
やもて大師と云ふは觀勝と云ふは神童禪師と云て是を以て  
觀勝といふ是大師小わ原妙與ちの威宗と云と神童又云て與  
と弘と云ふ二つありは觀勝と云ふは地蔵寺の傳記  
しりしりまはれも興る禪師の實名宗與といひ弘といひ大師の謚  
号弘法と云ふは弘法大師存世の日熱田の社人小與ら弘らりとい  
はれしりしりまはれも興る禪師の實名宗與といひ弘といひ大師の謚  
和尚寺院與隆の切元來らる京師難波有馬小松比又九州筑  
前寺に周處といふ名譽と云ふ一永徳二年壬戌七月十日年七十  
三して示寂一圓光大照禪師と謚と妻も傳り享徳二年無徳徳寺  
和尚著す所の圓光大照禪師行  
扶桑禪林傳空傳等に云ふ 南寺の世小勝と云ふ津城にて代々の輪旨院



妙興寺

蓬島話落

尾之妙興文室  
會住持說慶育  
正月廿七日

高里居士

梅華長卷

豐草原卿阿

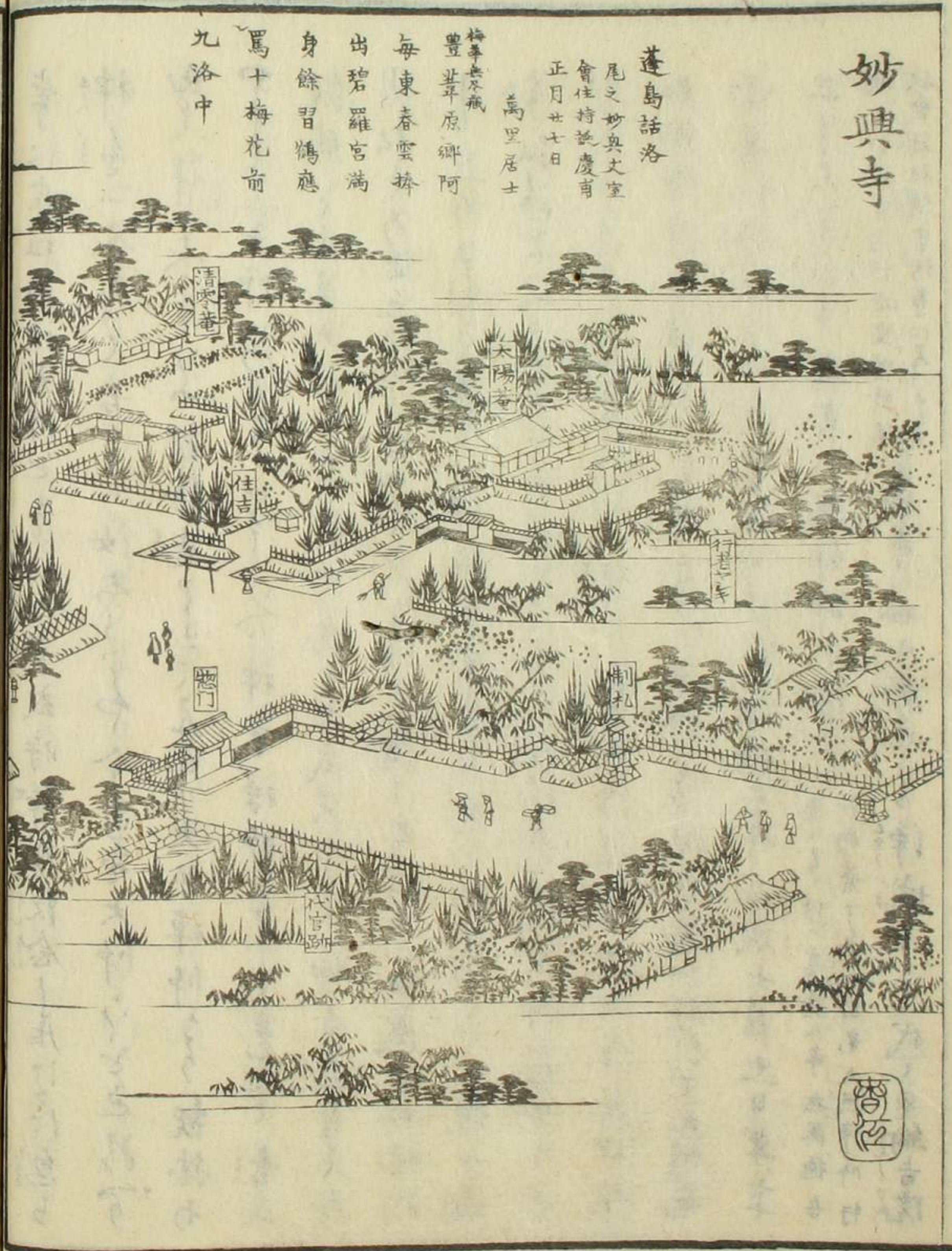
每東春雲捧

出碧羅宮滿

身餘習鶴應

罵十梅花前

九浴中



香印



中秋尾州妙  
真寺作 南化園那  
三五秋深獨閉門白頭吟盡  
立黃昏東更西維一輪月欲  
問平安天不吉

山門ハ  
花ハ  
少クヤ  
散ル紫  
地璋



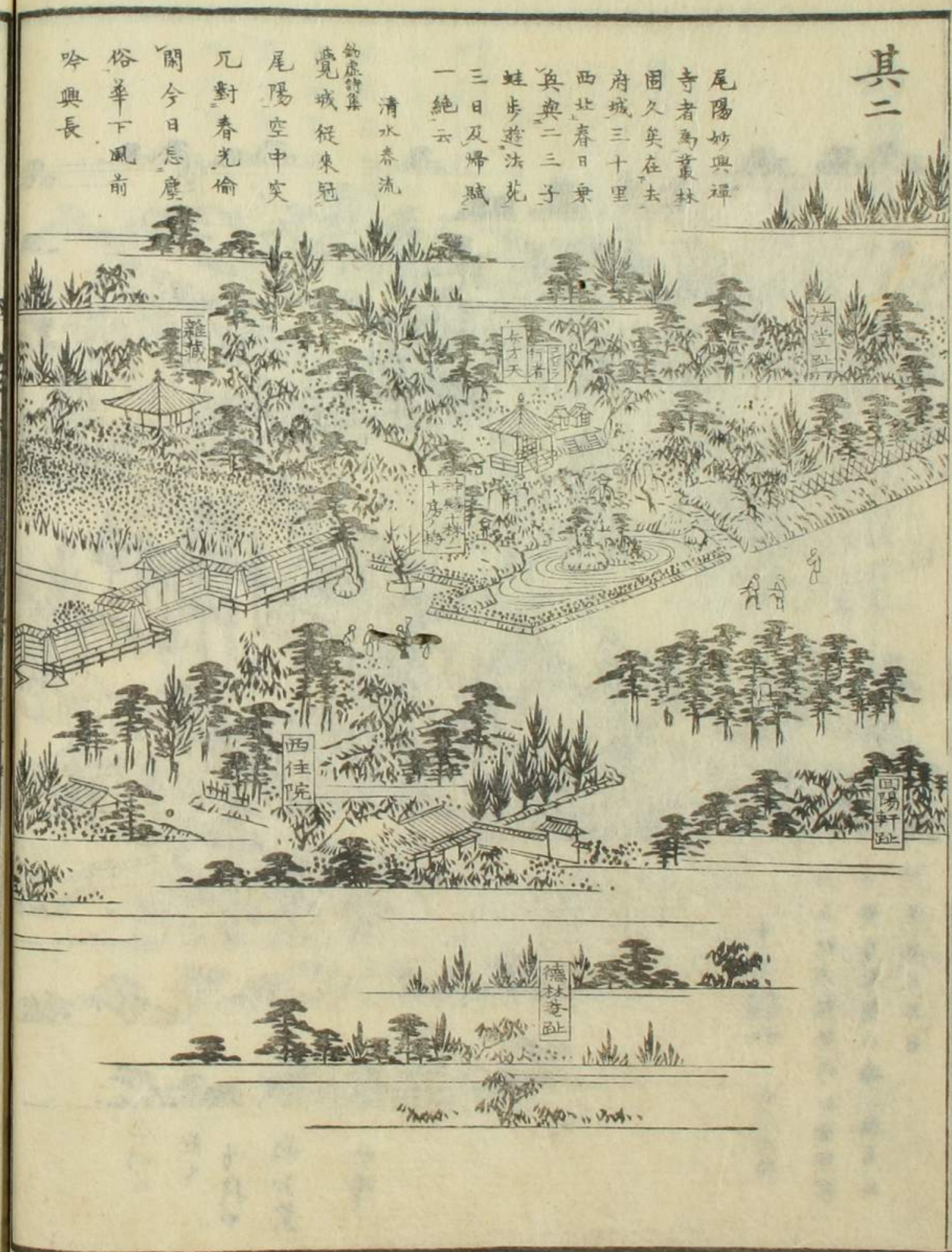
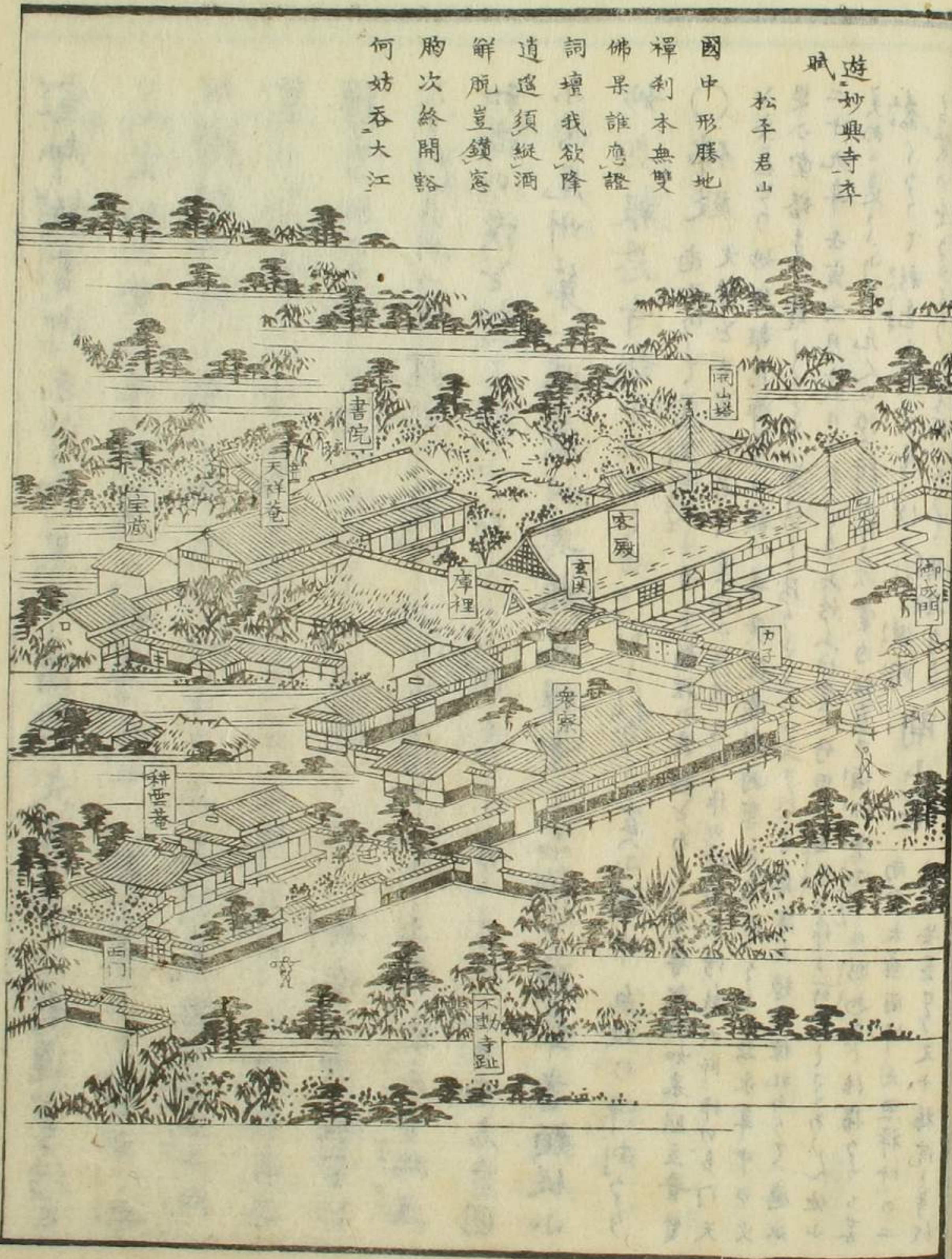
其二

尾陽妙興禪  
寺者為黃林  
固久矣在去  
府城三十里  
西北春日乘  
真與二三子  
蛙步遊法苑  
三日及歸賦  
一絕云  
清水春流  
覺我從來冠  
尾陽空中突  
兀對春光偷  
關今日忘塵  
俗華下風前  
吟興長

遊妙興寺奉  
賦

松平君山

國中形勝地  
禪利本無雙  
佛果誰應證  
詞壇我欲降  
道遠須縱酒  
解脫豈鑽窓  
胸次終開豁  
何妨吞大江





宣御教書御朱印御黒印諸陀文等今に教通と傳  
了文和二癸巳年將軍足利尊氏公 勅と奉じて國中無  
双禪刹の額と賜ひ永享四年壬子年足利義教公富士御  
覽の序尚も帰駕と交らる半日滞座りて妙真報恩  
禪寺の台筆と添てと旧寺領に復し安堵の御教書と  
なすられ大檀那と稱し公の肖像と書き京都鹿苑寺瑞溪  
和尚の没と加へて今小むるまで供養しなり又日本名畫圖  
小も尾州第一勝藍妙興報恩禪寺と名し續羣書類從小  
妙真報恩寺記との世に世にわたりて又小國中無双の禪刹なり

○佛殿 南面して覺皇空殿と号し教理の共類とわたり本尊釈迦如來服立普賢  
と安座り妙真報恩禪寺の額ハ普廣院義教將軍の台筆なり 永享年中の火  
災小堂塔多く焼くもひききりてお侍人竹田の番道が作らるる所と云われん他小  
二十九年壬寅十月十五日と見ゆりお侍人竹田の番道が作らるる所と云われん他小  
美の建りて九人の像の所なり堂内は佛の須弥壇欄干の彫りも結構なり  
佛の建りて彩色も定ふるなり 開山塔 南面大願國師大照祥師の二  
塔と安座り又十梅院と号し

開山塔 南面大願國師大照祥師の二  
塔と安座り又十梅院と号し  
佛殿 南面して覺皇空殿と号し教理の共類とわたり本尊釈迦如來服立普賢  
と安座り妙真報恩禪寺の額ハ普廣院義教將軍の台筆なり 永享年中の火  
災小堂塔多く焼くもひききりてお侍人竹田の番道が作らるる所と云われん他小  
二十九年壬寅十月十五日と見ゆりお侍人竹田の番道が作らるる所と云われん他小  
美の建りて九人の像の所なり堂内は佛の須弥壇欄干の彫りも結構なり  
佛の建りて彩色も定ふるなり 開山塔 南面大願國師大照祥師の二  
塔と安座り又十梅院と号し

客殿 十梅院の西にわたりて南面天祥菴と号し又次明の可菴  
書院 今の所も其古跡なり芝の六明瞭なり  
衆寮 寺の十境の寺四選佛場と云ふ今も  
其跡なり開山在世の時二百餘人の住居  
と云れり

惣門 外門なり勅額なり  
勅使門 中門なり二の門と云ふ  
山門 寺記に云く創建より年月と云ふなり  
又弘慶と云く創建より年月と云ふなり  
鐘樓 云々の前なり清の法小尾張國中島郡長島山妙興報恩禪寺大鐘樓主  
基比丘宗與住持比丘善一と云ふ因所ハ天祥菴の鐘もわたりて流りて  
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘徳吉誌焉因所ハ豆木の被と云ふなり  
て古物なり

警觀音堂 寺堂なり足利尊氏公の念持佛なり近き頃  
住吉社 辨  
財天社 天神社 世傳天満宮と稱す太宰府形影の小社と  
靈寶 涅槃像  
聖一丈八尺横一丈二尺の大幅の佛也 京都泉涌寺の開山俊祐國師末因より持來  
る所なり 兼書ハ去應仁大乱當寺田録之刻此尊像給失處八幡郷内從一位町長谷川  
道慶入道為現當二世六親眷屬以過分財錢令買得  
奉寄附者也于時文明十戊戌年二月十五日と云ふなり  
觀音竜虎三幅對 牧溪和  
畫幅ハ往一年 因祖若御買りて其まじりて納り  
大嶺藥山圖二幅 牧溪  
筆りて其の五幅對 鷲畫 玉桐  
墨梅 楊補之  
閑極法雲和尚墨跡 維

鐘樓 云々の前なり清の法小尾張國中島郡長島山妙興報恩禪寺大鐘樓主  
基比丘宗與住持比丘善一と云ふ因所ハ天祥菴の鐘もわたりて流りて  
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘徳吉誌焉因所ハ豆木の被と云ふなり  
て古物なり

警觀音堂 寺堂なり足利尊氏公の念持佛なり近き頃  
住吉社 辨  
財天社 天神社 世傳天満宮と稱す太宰府形影の小社と  
靈寶 涅槃像  
聖一丈八尺横一丈二尺の大幅の佛也 京都泉涌寺の開山俊祐國師末因より持來  
る所なり 兼書ハ去應仁大乱當寺田録之刻此尊像給失處八幡郷内從一位町長谷川  
道慶入道為現當二世六親眷屬以過分財錢令買得  
奉寄附者也于時文明十戊戌年二月十五日と云ふなり  
觀音竜虎三幅對 牧溪和  
畫幅ハ往一年 因祖若御買りて其まじりて納り  
大嶺藥山圖二幅 牧溪  
筆りて其の五幅對 鷲畫 玉桐  
墨梅 楊補之  
閑極法雲和尚墨跡 維

鐘樓 云々の前なり清の法小尾張國中島郡長島山妙興報恩禪寺大鐘樓主  
基比丘宗與住持比丘善一と云ふ因所ハ天祥菴の鐘もわたりて流りて  
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘徳吉誌焉因所ハ豆木の被と云ふなり  
て古物なり

警觀音堂 寺堂なり足利尊氏公の念持佛なり近き頃  
住吉社 辨  
財天社 天神社 世傳天満宮と稱す太宰府形影の小社と  
靈寶 涅槃像  
聖一丈八尺横一丈二尺の大幅の佛也 京都泉涌寺の開山俊祐國師末因より持來  
る所なり 兼書ハ去應仁大乱當寺田録之刻此尊像給失處八幡郷内從一位町長谷川  
道慶入道為現當二世六親眷屬以過分財錢令買得  
奉寄附者也于時文明十戊戌年二月十五日と云ふなり  
觀音竜虎三幅對 牧溪和  
畫幅ハ往一年 因祖若御買りて其まじりて納り  
大嶺藥山圖二幅 牧溪  
筆りて其の五幅對 鷲畫 玉桐  
墨梅 楊補之  
閑極法雲和尚墨跡 維

鐘樓 云々の前なり清の法小尾張國中島郡長島山妙興報恩禪寺大鐘樓主  
基比丘宗與住持比丘善一と云ふ因所ハ天祥菴の鐘もわたりて流りて  
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘徳吉誌焉因所ハ豆木の被と云ふなり  
て古物なり



摩居士贊 石林和尚 趙子昂書 張瑞圖書 人物圖 趙千里 墨梅 雪崖 山水

唐寅 虛堂肖像 唐畫筆 人物芭蕉松兔三幅對 明梅 四天王像四幅 唐畫

詳十六羅漢像十六幅 上 十六善神 上 拾得圖 然可翁畫妙 觀音大

士像 然可翁畫廣 不動尊像 妙澤和 白衣觀音像 兆殿 神仙圖 上

山水 周文 同 雪舟 三聖人圖 上 福祿壽童三幅對 雪村 釈迦文殊普賢

三幅對 啓書 蓮鷺圖二幅對 相阿 鷹圖 萬里居 竹雉子圖 足利義總

張果良圖 永德 義教公肖像 筆者不詳 秀吉公肖像 畫者不詳 四聖

圖 快川國 夢窓國師墨跡 寧 山 墨跡 大燈國師墨跡 大應國師

墨跡 大照禪師墨跡 維摩居士讚 無住國 一休和尚墨跡 春溪和尚

墨跡 古劍和尚墨蹟 笑隱和尚墨蹟 天隱和尚墨蹟 悟溪和尚

墨跡 特芳和尚墨蹟 慶甫二字 九洲和 諸山疏 葉彦和 関山行狀

記附 妙真寺記 無隱德吾 尊氏公手蹟 觀應三年六月 秀吉公自詠

和歌 自 後醍醐天皇末寺圓光寺境内安堵繪 元弘三年 後光嚴

帝境内安堵繪 文和元年十一月九日 同寺領安堵繪 貞治五年

田院宣 貞治四年 伏見帝熱田院宣 延文四年八月七日 同熱

久我内大臣通相公境内寄進狀 延文四年二月卅日同五年閏四

宇宙とて神印の 意津天皇の御物按摩面の矢の羽八枚 神功皇后の御物なり

一宮妙島とておとせり 意津天皇の御物なり 久我家に傳へて名をさす

考とす 足利義詮公寺號御教書 文和二年 同安堵御教書 貞治三年

尊氏公安堵御教書 文和三年三月廿八日 同末寺圓光寺境内安堵御教

書 建武三年 義持公安堵御教書 應永十八年 義量公安堵御教書

應永卅二年 義教公安堵御教書 永享二年 義勝公安堵御教書 文安

八月 義政公安堵御教書 長祿二年 義尚公安堵御教書 長享元年

植公安堵御教書 永正八年 高階師貞證文 曆應二年 細川武藏守

頼之證文 明德二年 細川勝元證文 長祿二年四月二日 斯波左兵衛義廉

同三年四月十一日



證文 長祿四年 織田出雲守常竹證文 應永十一年 同伊勢守常松證文

支 應永十五年 同遠勝證文 永正十三年 斯波左兵衛督義淳制札 應永

冊年九 織田大和守制札 嘉吉三年 同紀伊守廣遠制札 延德二年 同

五郎制札 文龜三年十一月日外辰翰より將軍家の御教書武家方の寄

一と次下 寄進状 嘉曆二年十一月廿五日散位宗顯 貞和三年九月三日宗顯 同五年三月二日

元年七月十日高階泰隆 延文四年三月二日額西 貞治二年七月五日泰隆 應安四

應永十二年十月十五日直盛 同十六年八月廿二日沙弥宗直 同十八年八月廿二日宗源祥

了阿 永享元年十一月廿日藤原久親 長祿二年四月七日元行 明應五年三月十四日

元應二年四月三日沙弥義念 元弘二年八月九日尾張齊俊 嘉曆二年二月廿四日沙弥輝

覺 正中三年八月廿日家賢 曆應二年七月五日沙弥善覺 貞和元年十二月八日女行

應永九年十月十六日沙弥常竹 同十年正月十一日良關 賣渡状 弘安五年五月廿九日沙

同廿一年十二月十三日性秀 嘉吉三年三月四日全瑞 沽却状 貞和五年三月十日

月十三日尾張宣俊 元弘二年正月十一日尾張齊俊 元德三年十二月廿日藤原泰經 應永十

六年十月廿三日長明 同十八年十月三日信德 同十九年十一月廿五日善弥六入道善秀 同廿

五年十二月十三日善政 同廿七年極月十七日牛太郎同後室 永享 沽却状 貞和五年三月十日

二年十一月廿四日勝福寺住日海已下三人 康正元年十一月三日宗文 坪付注文 文和五

沙弥覺 觀應元年十月八日源祐俊 康安二年二月三日源清貞 貞治五年五月三日泰

隆 同六年九月廿六日高階經久左京亮直經 明德五年十一月十日安義已下三人 應永二年十二月

十三日長徳 同十年二月十八日景演 同十一年十月十五日宗直 同十七年八月廿二日龍吉 同十九

年二月九日沙弥性秀沙弥宗直 同廿五年十一月四日宗了 同廿六年十月一日令精 永享

十一年十二月三十日 沽券状 貞和二年閏九月十三日宗顯 康安二年三月十日泰隆 應永六

年十月廿三日安久將監安嘉 契約状 貞治二年十二月十三日能親 坪付注文 文和五

同十四年正月十一日安吉 放券状 觀應二年四月廿三日宗顯 貞治四年 賣券状 應永

三年八月日沙弥宗天 同十七年十二月七日長明 同十 執達状 永正十三年十二月一日織

九年十月廿日信徳 同廿五年十月十五日宗策 書状 應永二年八月廿八日法眼長圓 同五

九 與證状 永享十一年十一月廿日久親 常松 同廿五年十二月十三日大使代 室徳四年三月廿四日坂井入道 長祿二年十二月廿

四日貞基之清 文明五年六月十一日敏廣 長享元年十二月廿三日長秀元定 明應六年

十一月十二日林九郎 同十年正月十三日与三太夫吉房 同八年十一月十九日寛廣 永正十

三年極月七日定次 同十四年十二月七日前野廣久 大永六年八月廿七日連勝 天文二年

十二月廿六日織田彈正忠信秀 同六年五月 此外織田氏の古書百とてりて 又武田信玄の書簡狩中七郎 後京久親 遠藤三郎宗次とてりて 勢

田大宮司家の人の荒尾民部少輔宗頭二宮備中守入道省忠等 歴の武家家象の流状減ふ多くと 海内の古證文ハらに 器財の類ハ 牌四枚 坐禪故參祈禱嚴淨の八字 點茶點湯 共ニ宋國無準和尚筆







牌張即普回向浴佛偈二枚同 聯趙子昂筆 額清の一字 同上堂の二 大

應國師袈裟衣一 大照禪師袈裟衣一 南化國師袈裟御寄附 阿古秀吉公筆

陀鑪子中島藏 中央唐製慶南 同詩画古製大 秀吉公御膳三枚琉球

彫蓼花鏡湖州孫家作 南京淨瓶一對大照禪師所持 香合大小二具大 宝鈴天竺

法磐朝鮮製 鈴南蠻製 獅子香爐交趾製 屏風一雙古法 同土佐將 衣吉秀

寄附 大應國師塔銘稀世の古物にして世人これと羨するものなり

勅諭 大應國師塔銘銘文とたに

圓通大應國師塔銘福州巨福山建長興國禪寺勅諭

資慶元路金天竺真相禪寺住持沙門釋密詣

圓悟善道夫江浙等處行中書省左丞周伯琦

傳而為松源岳々為一二傳而為大慧果一為虎丘隆々

愚得虛堂之傳而在日東者建長庵岩再傳而為應

師也國師諱紹明字南浦駿州安部縣人出藤氏如

戒往依建長寺淨隆公正元間既望崖而編髮受具

謁堂愚公主淨慈門庭高峻元學既望崖而編髮受具

一曰使善畫者寫堂壽像請贊堂披筆書曰紹既

白却乘流過海東時咸淳改元之夏六月也無

又却乘流過海東時咸淳改元之夏六月也無

靜月堂起大悟呈偈曰忽然心境俱忘時大地山河

透脫機法王法禪身全現時人相對不相識

秋報師曰這漢忝禪大徹矣自敲門庭細揣摩路頭

書其後曰經過明明客自說與虛堂曰敲門庭細揣摩路頭

通首座源長老聚頭龍峯後告歸私袖紙求法知客

道珍今既歸當本國文永四年也偈建長行萬里水程以

皮無端佛提唱有十鐵樹生花正歸未將佛法掛

年秋從西都始開口鐵樹生花正歸未將佛法掛

入院語因墨侍者呈徑山興德禪寺遂以嗣法書并

三矣其為堂器重如嘉元甲辰奉太宰府之崇福

上皇召對官掖問答稱旨特差住持下萬壽禪

賞遊問道者車馬日盛稱旨特差住持下萬壽禪

禪刹延師為第一祖德治師即署所演法復敷奏請

寺而相州太守平崇演請師即署所演法復敷奏請

寺而相州太守平崇演請師即署所演法復敷奏請



主巨福山建長興國禪寺明年春太上皇降手詔  
存問禮優至當入寺之夕小參有白今年臘月廿  
九日來無所來明年當延慶戊申臘月廿九日無  
莫二鼓其意明年當延慶戊申臘月廿九日無  
至猶書手書偶曰呵風罵兩佛祖不知一機十督  
度弟于宗雲宗意而逝有餘人嗣其法而分仁然  
者興聖忠崇福運南禪卓南禪圓萬壽禪而分  
福一萬壽心崇福運南禪卓南禪圓萬壽禪而分  
龍翔友等若千人奉龕閣維設利無算事聞福  
上哀慕不已塔骨石舍利寺之後山塔曰普光  
京額曰龍翔塔骨石舍利寺之後山塔曰普光  
曰祥雲弟子在長建者奉舍利塔瑞雲之地曰  
在崇福者奉舍利塔瑞雲之地曰  
兩雪岩阿發光迹之得烏遠近尤異之門人及  
夜半比五省規所撰其師住蔡州安國山聖  
夏四月門人宗規所撰其師住蔡州安國山聖  
國師之天下無間乎海之內外也日東諸國  
道之盛若圓通大應國師之內外也日東諸國  
為蕃之歸如也水赴徑既寂尤著靈異殆古佛  
致衆昭其化也東海東君臣禮樂諸淳風  
而來荒之內東海東君臣禮樂諸淳風  
大別有天地關鴻蒙  
別有天地關鴻蒙  
世代綿歷無終窮  
尤能頌誠事竟雄

抑有者碩居其中  
宜爾雜還來象龍  
佩毘盧印開首聳  
龍錫異數禮益隆  
天人圍繞華雨濛  
啓覺茫蠢起凡庸  
獸鬼躡躡涕無從  
海天不夜貫長虹  
山君川后謹封  
聖惟國師昭厥躬  
勤之干以昭厥躬  
法孫比丘立

群書一覽不塔之法模刻本漢文之跋  
益元人の刻す所よりて其徒走て碑銘と元朝の  
航して是と得しゆ。と云ふ。去年余源子開と往て師の塔と拜し則合掌讚歎して曰四塔の  
然。二。又。三。佛と云ふ。よ。の。法。院。の。こ。ろ。と。作。り。文。と。ぬ。じ。り。の。法。字。の。と。玩。び。士。君  
子。則。介。介。の。人。の。大。邦。と。欽。す。る。と。也。次。其。の。り。の。德。是。師。法。の。高。德。禪。所。と。揚。々。操。刻。て  
布。施。も。竟。改。己。未。尾。法。泰。昌。殿。と。も。又。寫。如。五。年。威。宗。和。尚。が。著。す。所。の。大。應。録。も。は。法。と  
出。せ。り。され。ば。小。美。わ。り。と。り。す。 塔頭西住院 梅華元尽藏不尾之妙真寺 大陽菴  
今。を。書。し。て。記。す。 菴に保童丸の法とて賣茶元祿の頃伯修其隱居一可笑軒と号一小兒と療治次  
修ふ名古倉小末。 國君地と居ひて居一ととと寺一と久法寺と名づけ小兒科とやらとと  
の。ら。を。備。へ。て。佛。所。と。う。ら。ひ。大。陽。菴  
か。も。其。製。法。と。失。り。次。今。は。菴。と。す。 耕雲菴 種玉菴 桂昌菴 瑞芳菴 丹羽郡  
孫海道村小わり菴も三世大猷圓融禪師開基一其後菴さかへ易地一其正年中無隱和者  
こ。の。退。去。り。し。ん。ま。り。無。居。わ。り。と。異。基。と。り。し。る。と。り。無。居。障。ハ。德。吾。と。り。開。山。行。状。記



妙興寺記天祥菴鐘銘多し書  
人うり文明元丑年菴す

清寥菴等り

妙興寺  
寶殿類 靈光 壯麗 偏驚 甲 四方 樹 結 花 鬘 連 福  
土 風 傳 鳥 語 出 空 廊 可 朝 賜 額 無 雙 字 開 士 遺 蹤 一  
姓 香 探 勝 魚 憐 禪 寂 地 開 披 貝 葉 坐 繩 牀

小栗海道

妙興寺の南にあり今廢す  
うり小栗堤といふ名のり砂まう  
むり小栗判官横山庄司と不和す

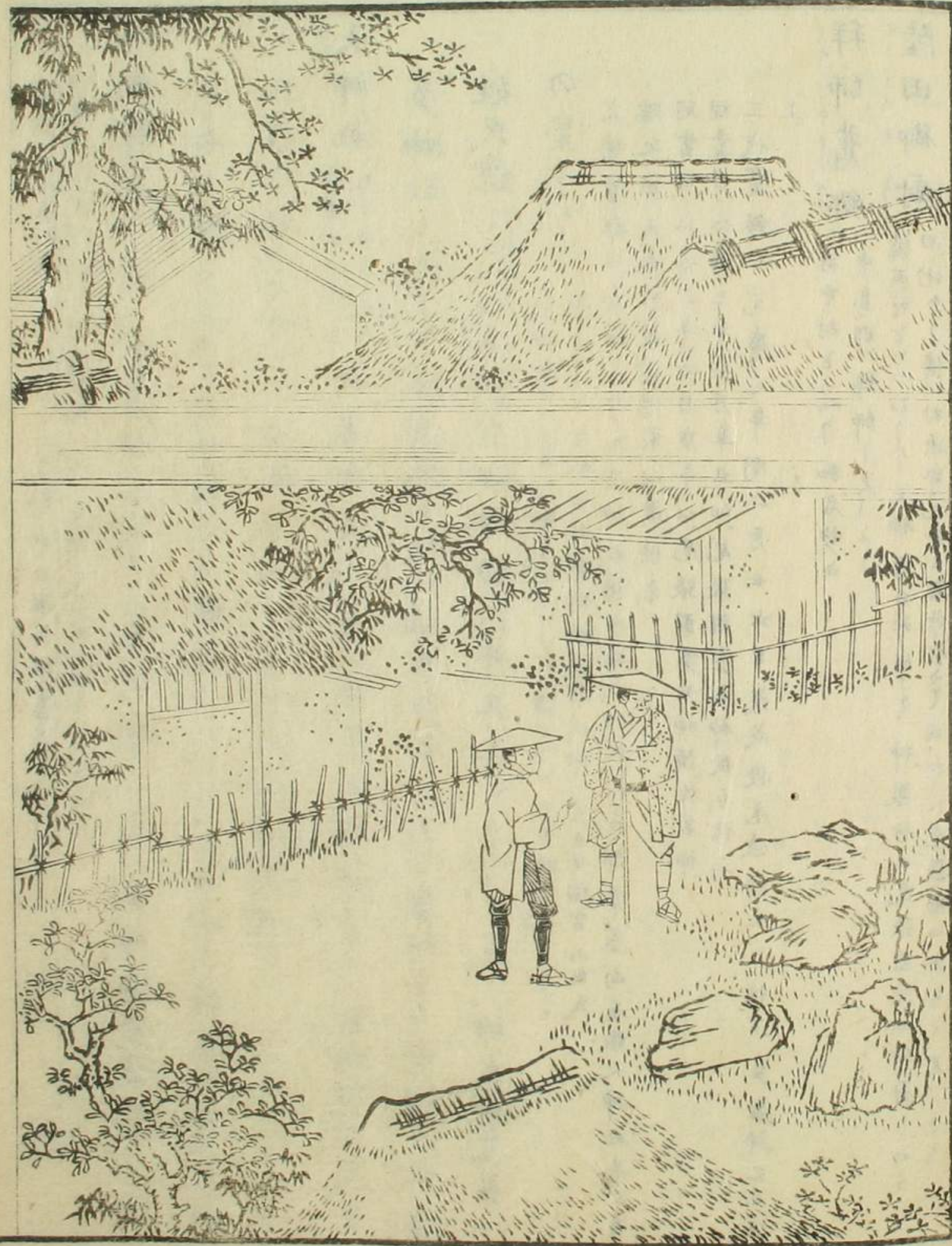
庄司判官と害曰んと謀りてと判官が妻照手娘に庄司の娘をれど父  
の諒と夫小告けし判官海倉と退り照手も父の勅氣と暮り汚水  
と編歴り判官病にうりけし照手なめて夫と地車小の巳  
都小のりりけしとととと隣村赤地の里人安友氏の宅地小  
小栗海道の松といふ古木のこりといふ小栗判官車街道といふ浄瑠  
璃狂言小より俗説うりまれども諸公もに此地のびくといひ傳へ  
たる所少く又美濃の不破郡青墓といふ照手娘といふ長者の孫小  
奉公朝夕清水と汲きてついでと業とてついでといふの近々  
戸村小照手娘の清水といふ舊跡ありといふ濃州志畧小より小栗

實説海倉大草紙に應永三十年の頃常陸國の任人小栗孫太郎  
満重及逆の幸りて源持氏の退治りてとる其子小次郎助重  
患ひて鎌倉の權現堂といふ所小行き或る夜に毒酒と進りて  
強盗といふ小次郎と殺し隨身の宝と奪ひ取むと毒酒と進りて  
餐けくと照姫といふ遊女其謀計とむるに小栗小告いふ小次郎  
酒と飲やうりて吞み破砕するにわがむさ夜中と宿りと途に  
賊等が盗といふつあざ置る悪馬小取と鞭をたて後海の道場小  
と巳入り又逆のひて三河小末と宿り後永享の頃小次郎三河より  
海倉にわり照姫と尋出り捨るの宝とわりついでといふとあり  
其物詰と附合して作り汲けるものあり世に流布す小栗實記といふ  
このものもといふとらる俗書なり

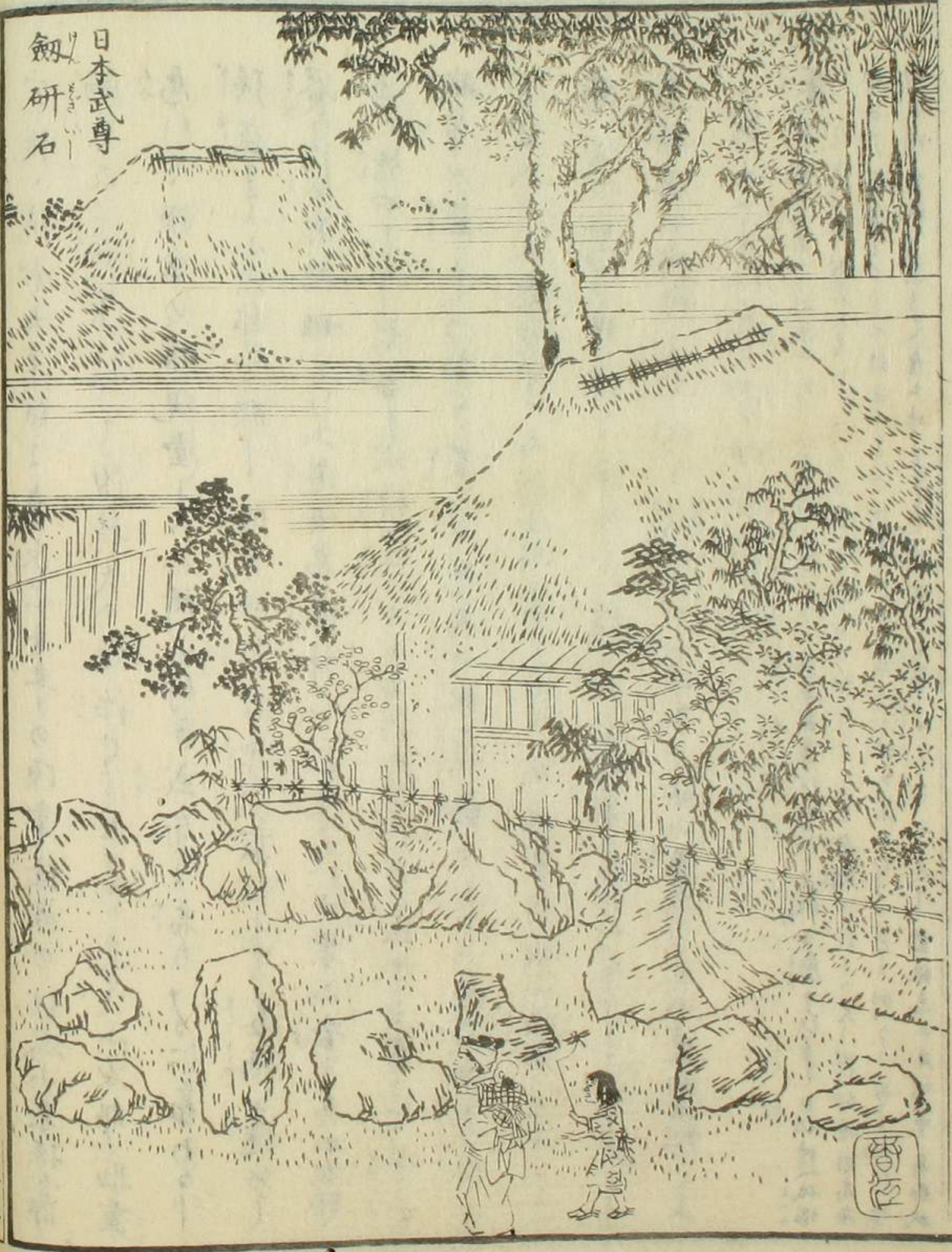
砥塚

戸塚村あり村の中に巨岩ありむり日本武尊止所とて剣と磨りひしひ修砥塚  
と名づけ村名とむりむり其石の性やうとて砥礪の石といふは相摸國高座  
郡の戸塚者といふ諸公も多き地名とす所より必大岩のむりかたの例あり戸村に  
田大神宮社とありて産土神といふも砥塚の地名といふとて云根志小尾州中島郡砥





日本武尊  
研石





墓村より古代の墓と塔山ありこれの中に曲玉神管石あり  
は所ハ上古十柄の御鏡と研一所と法州を中村正徳の活あり

川曲神社 子生利村 延喜神名式小川曲神社と云々 本國神名帳小從三位

河曲天神と云々 里俗十三權現と称するハ貞治の國帳の神階從

三位とありと十三と心得なり 本社熊野社御鏡社 例祭八月廿一日

大神社 於保村ありて 天王社あり 延喜神名式小中島郡大神社と云々 同臨時祭式小

多神社と云々 本國帳小從一位多名神とあり 官社あり 祭神ハ新撰

姓氏録より多朝臣祖神神八井身命と云々 是 神武天皇第二

の皇子と云々 今相殿ハ王子と配享するハソノ頂より天王社と誤るなり 起りし本社大明神社神明社例祭八月廿日祠官山田氏

文徳實録曰嘉祥三年九月神祇權少祐正六位上占部業基向尾張大神社告以賀

瑞之由大板於建禮門前以遣使也

同書曰仁壽三年六月庚午以尾張國多天神預於名神

同書曰仁壽三年七月辛丑加尾張國多名神從五位上

三代實録曰元慶元年閏二月廿六日戊戌授尾張國正五位下多名神正五位

拜師 林せ村と云々 和名抄小 中島郡拜師と云々

陸田御厨 陸田村と云々 大神宮の御厨と云々 神鳳抄ハ尾張國陸田御厨と云々 旧地あり 隣村次郎丸村と云々 同抄に尾張國四郎丸と云々

赤池里 赤池村と云々 康正二年造内裏段錢英國役引付に三浦平四郎殿尾張國中島郡

撰要の別紙追加曲 梅居と云々 本享儀の古写しにて 節抄ハ海道の記 赤池の

後川浪と云々 水の志と云々 行やと云々 誰の心と云々 不破の雲をの板びき 同抄のありに

尾記神ゆれて茅茨や切ぬ萱はの鈴も秋とて吹風ふひらき面のある浪りの橋の中か 陸田を

もこのぬ代め ありと云々 海と云々 三の吹風も秋とて送らニ村山と云々 又云々 中島

三本木池 赤池村の成交の方にあり 池をに枝の大樹三株あり 大風不傷水中小入て

美濃の各勢の系の北小麻綜池と云々 あり 其他と云々 赤池と云々 村名も云々 起り

其望日人馬と云々 三本木の池と云々 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

長沼山萬徳寺 長池村 真言宗と云々 山城國醍醐の報恩院の流派南玉

の あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

邦當寺ハ神護景雲二戊申年慈眼上人の創建と云々 稱徳天

皇の勅願と云々 續日本紀三代實録等につて 鶉沼川決損餘







万徳寺  
 國衙廳館跡  
 同學校址  
 修理若御子社

園衙舊址懷古

天野信景

松林集

松下無人孤

柳跡兒英慈

麥秀平疇千

年事往山川

老遼鶴空歸

一古丘



過舊學校地  
 清水春流  
 釣魚詩集  
 路傍荒忽  
 晚風寒古  
 學有名不  
 耐嘆前代  
 真英皆物  
 故關人竹  
 立淚關干



香位



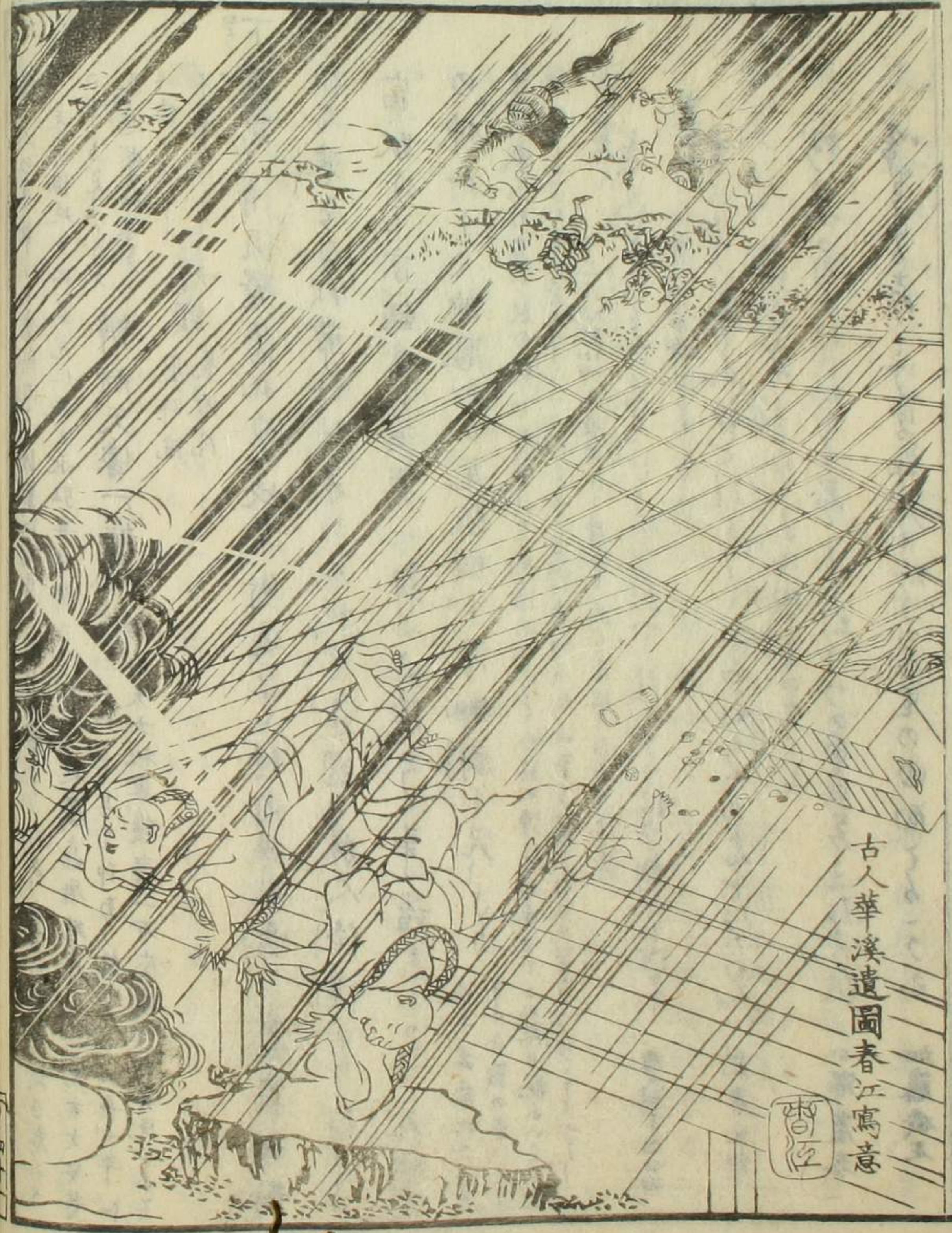






のあつきのにけりまきり幸ハ世の如く所ありと  
 は因かそあゆと重るるハ少名集の文意に  
 よつて之は一巻をよめて一巻を虚とする  
 幸がくれ

砂石集に去り  
 文永七年七月  
 十七日尾張の全  
 下流の者小雷  
 落てたけ馬三足  
 蹴抜して小家に  
 入り入る帷子小  
 雷雲かいて双六も  
 て居る法師の答  
 小かきあつてかき  
 とハ敷りにかき  
 家とハすこも扶せ  
 法師もつごあつりけり  
 次の日本の濁りてその  
 近せうてたうか文作り  
 云々といふるる元来あハ所



古人華漢遺圖春江寫意











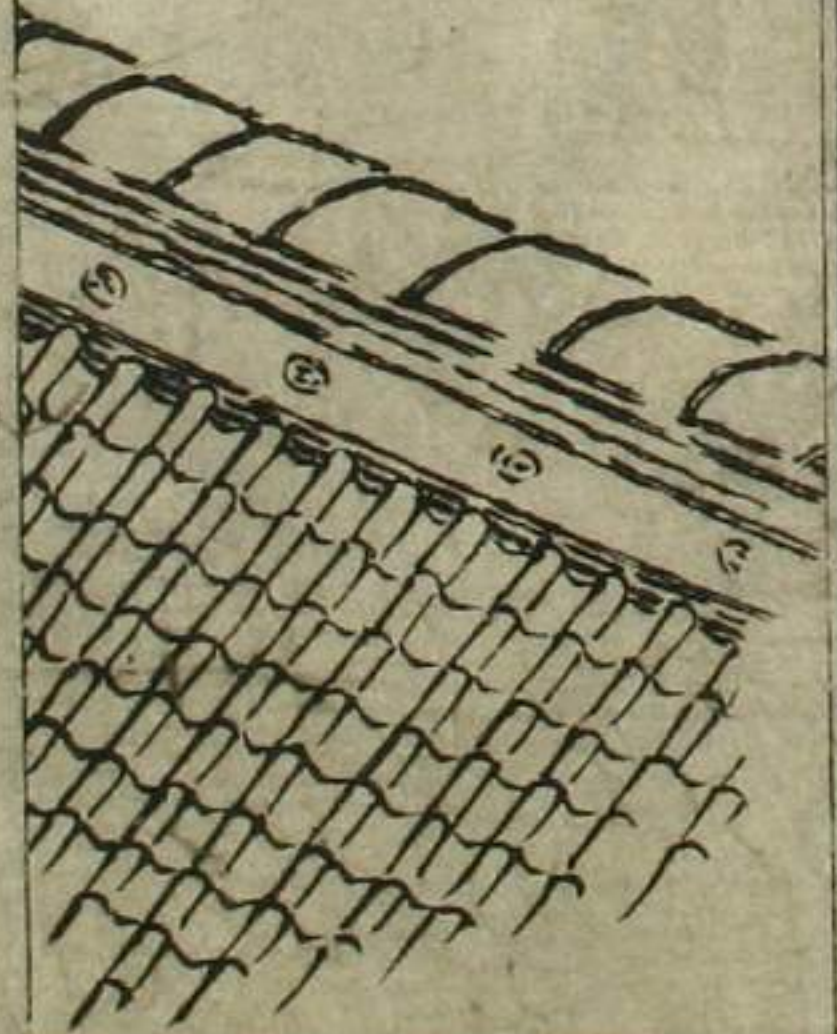






# 尾張名所圖會後編

岡田啓 遺稿  
野口道直 圖畫  
小田切春江 并補綴



## 尾張名所圖會後編卷之一終

毛見の翌日より六畝刈り西日上田一日病人田一日沼田一日白見より無福より病人田と云ふ一病人有  
き一村より一田と都て野々々々沼田もあれと云ふて有りぬるこも余根の通と云ふと  
禁する井の掛  
りしり

わらわらやまのふらふら山をこつて四つらう廣一平町ハの町 本居宣長

大いにてまらむびは木植小村田のりい茶んらうも 田中道磨

撰りくや刈や田小焚夕けり 士朗

瓦堂廢跡

長興寺大吉祥寺西蓮寺等の大伽藍敷字らうらうらうらうらう  
尾張の跡と云ふ







